

0001

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：基礎

16進数3Aを10進数で表した値はどれか。

- ア．58（ $3 \times 16 + 10$ として計算）
- イ．48（上位桁 3×16 だけを計算）
- ウ．52（Aを誤った値として加算）
- エ．62（Aを14とみなして加算）

答え・解説

正答：ア

ア：正答。16進数3Aは $3 \times 16 + 10 = 58$ である。16進数ではA～Fが10～15に対応する。
イ： 3×16 だけを計算しており、下位桁A=10を加えていない。
ウ：16進数のAは10なので $3 \times 16 + 10 = 58$ であり52ではない。
エ：Aを14など別の値として扱うと誤る。Aは10である。
総合解説：16進数3Aは $3 \times 16 + 10 = 58$ である。16進数ではA～Fが10～15に対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0002

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：基礎

集合 $A = \{1, 2, 3, 4\}$ 、集合 $B = \{3, 4, 5\}$ のとき、 $A \cap B$ はどれか。

- ア． $\{1, 2\}$ （Aだけに含まれる側の要素）
- イ． $\{3, 4\}$ （AとBの共通要素）
- ウ． $\{1, 2, 3, 4, 5\}$ （AとBの和集合）
- エ． $\{5\}$ （Bだけに含まれる要素）

答え・解説

正答：イ

ア：Aにだけ含まれる要素であり積集合ではない。
イ：正答。積集合は両方に共通して含まれる要素の集合なので $\{3, 4\}$ となる。
ウ：これは和集合A ∪ Bである。
エ：5はBだけに含まれ、Aとの共通要素ではない。
総合解説：積集合は両方に共通して含まれる要素の集合なので $\{3, 4\}$ となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0003

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：基礎

二分探索を適用するための前提として、最も適切なものはどれか。

- ア．探索対象が必ず連結リストである
- イ．要素数が2のべき乗である
- ウ．探索対象がキー順に整列されている
- エ．重複キーが存在しない

答え・解説

正答：ウ

ア：二分探索の本質的前提ではない。

イ：要素数は2のべき乗である必要はない。

ウ：正答。二分探索は探索範囲を半分ずつ絞るため、対象が探索キー順に整列されていることが重要である。

エ：重複があっても探索は可能である。

総合解説：二分探索は探索範囲を半分ずつ絞るため、対象が探索キー順に整列されていることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0004

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

要素数 n の配列を先頭から順に調べる線形探索の最悪時間計算量はどれか。

- ア． $O(1)$ （入力数に依存しない一定時間）
- イ． $O(\log n)$ （探索範囲を段階的に半減する場合）
- ウ． $O(n^2)$ （全要素対を調べるような場合）
- エ． $O(n)$ （最悪時に n 要素を順に確認）

答え・解説

正答：エ

ア：要素数に関係なく一定時間ではない。

イ：二分探索などで代表的な計算量である。

ウ：全要素を高々1回ずつ確認するため二乗にはならない。

エ：正答。線形探索では最悪の場合 n 個の要素すべてを確認するので $O(n)$ である。

総合解説：線形探索では最悪の場合 n 個の要素すべてを確認するので $O(n)$ である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0005

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

スタックにA、B、Cの順でpushした後、2回popした。2回目に取り出される値はどれか。

- ア．B
- イ．A
- ウ．C
- エ．取り出せない

答え・解説

正答：ア

ア：正答。スタックはLIFOであり、取り出し順はC、B、Aとなる。したがって2回目はBである。

イ：AはCとBが取り出された後に残る。

ウ：CはLIFOにより1回目のpopで取り出される。

エ：3要素push後なので2回とも取り出せる。

総合解説：スタックはLIFOであり、取り出し順はC、B、Aとなる。したがって2回目はBである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0006

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

幅優先探索で、未処理頂点の管理に一般に用いるデータ構造はどれか。

- ア．スタック
- イ．キュー
- ウ．ヒープだけ
- エ．ハッシュ関数だけ

答え・解説

正答：イ

ア：スタックは深さ優先探索で典型的に使われる。

イ：正答。幅優先探索は近い階層から順に処理するためFIFOのキューを利用する。

ウ：通常の幅優先探索の基本構造ではない。

エ：訪問済み判定には使えても探索順序管理にはキューを使う。

総合解説：幅優先探索は近い階層から順に処理するためFIFOのキューを利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0007

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

平均が10、分散が9のデータの標準偏差はどれか。

- ア．81（分散9を二乗した値）
- イ．9（分散そのもの）
- ウ．3（分散9の平方根）
- エ．1（分散9の平方根ではない値）

答え・解説

正答：ウ

ア：分散を二乗した値であり標準偏差ではない。

イ：9は分散そのものである。

ウ：正答。標準偏差は分散の平方根なので $\sqrt{9}=3$ である。

エ：分散9の平方根ではない。

総合解説：標準偏差は分散の平方根なので $\sqrt{9}=3$ である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0008

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：標準

命題 $P \rightarrow Q$ が偽となる組合せはどれか。

- ア．Pが真、Qが真
- イ．Pが偽、Qが真
- ウ．Pが偽、Qが偽
- エ．Pが真、Qが偽

答え・解説

正答：エ

ア：前件も後件も真なら含意は真である。

イ：前件が偽の場合、論理含意は真と扱う。

ウ：前件が偽の場合、論理含意は真と扱う。

エ：正答。 $P \rightarrow Q$ が偽になるのはPが真でQが偽の場合だけである。

総合解説： $P \rightarrow Q$ が偽になるのはPが真でQが偽の場合だけである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0009

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：応用

再帰アルゴリズムを設計するとき、無限再帰を避けるために特に必要なものはどれか。

- ア．再帰を停止させる基底条件
- イ．必ずグローバル変数を使うこと
- ウ．全処理を反復処理に変えること
- エ．毎回同じ引数で再帰呼出しすること

答え・解説

正答：ア

ア：正答。再帰処理では再帰呼出しを行わず終了する基底条件と、その条件へ近づく状態変化が必要である。

イ：再帰にグローバル変数は必須ではない。

ウ：再帰を使う設計自体は妥当である。

エ：停止しない原因になり得る。

総合解説：再帰処理では再帰呼出しを行わず終了する基底条件と、その条件へ近づく状態変化が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0010

基礎理論・コンピュータシステム > 基礎理論・アルゴリズム | 難易度：応用

比較だけで n 個の異なる要素を整列するアルゴリズムの比較回数について、一般的な下界はどれか。

- ア． $\Omega(1)$ （一定回数の比較で済む下界）
- イ． $\Omega(n \log n)$ （比較ソート一般の下界）
- ウ． $\Omega(\log n)$ （二分探索型の下界）
- エ． $\Omega(n^2)$ （二重ループ型の下界）

答え・解説

正答：イ

ア：任意の n 要素を定数回の比較で並べ替えることはできない。

イ：正答。比較整列は $n!$ 通りの順序を識別する必要があり、決定木の高さから $\Omega(n \log n)$ の比較が必要となる。

ウ：全順序を決定するには比較数が不足する。

エ：単純な整列は $O(n^2)$ になり得るが下界は n^2 ではない。

総合解説：比較整列は $n!$ 通りの順序を識別する必要があり、決定木の高さから $\Omega(n \log n)$ の比較が必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0011

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：基礎

CPUのキャッシュメモリを用いる主な目的はどれか。

- ア．補助記憶の容量を増やす
- イ．停電時にもデータを保持する
- ウ．CPUと主記憶の速度差による待ち時間を減らす
- エ．CPUの命令セットを変更する

答え・解説

正答：ウ

ア：キャッシュは容量拡張が主目的ではない。

イ：一般的なキャッシュは揮発性である。

ウ：正答。高速なキャッシュに頻繁に使うデータや命令を保持し、低速な主記憶へのアクセスを減らす。

エ：キャッシュは命令セット定義を変更しない。

総合解説：高速なキャッシュに頻繁に使うデータや命令を保持し、低速な主記憶へのアクセスを減らす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0012

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：基礎

仮想記憶方式でページフォールトが発生するのはどのようなときか。

- ア．参照したページがキャッシュに存在するとき
- イ．CPUが特権モードに切り替わったとき
- ウ．ファイルが読み取り専用のとき
- エ．参照したページが主記憶上に存在しないとき

答え・解説

正答：エ

ア：キャッシュヒットはページフォールトではない。

イ：モード切替そのものはページフォールトではない。

ウ：保護違反とページ不在は異なる。

エ：正答。参照した仮想ページが物理主記憶にロードされていないとページフォールトが発生し、必要に応じて二次記憶から読み込む。

総合解説：参照した仮想ページが物理主記憶にロードされていないとページフォールトが発生し、必要に応じて二次記憶から読み込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0013

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：基礎

ラウンドロビン方式で各プロセスに割り当てる一定時間を何というか。

- ア．タイムクォンタム
- イ．ページフレーム
- ウ．セマフォ
- エ．チェックポイント

答え・解説

正答：ア

ア：正答。ラウンドロビンでは一定の時間片を順番に割り当て、この時間片をタイムクォンタムという。

イ：ページングで物理メモリを分割した単位である。

ウ：排他制御や同期に使う。

エ：障害復旧などで状態を保存する時点である。

総合解説：ラウンドロビンでは一定の時間片を順番に割り当て、この時間片をタイムクォンタムという。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0014

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：標準

複数プロセスが互いに相手の保持する資源の解放を待ち、処理が進まない状態はどれか。

- ア．スラッシング
- イ．デッドロック
- ウ．フラグメンテーション
- エ．プリエンプション

答え・解説

正答：イ

ア：ページ置換が過度に発生する状態である。

イ：正答。互いに必要資源を保持したまま循環して待つとデッドロックになる。

ウ：記憶領域が断片化する現象である。

エ：実行中プロセスからCPUを奪って切り替えることをいう。

総合解説：互いに必要資源を保持したまま循環して待つとデッドロックになる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0015

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：標準

入出力装置と主記憶との間で大量のデータを転送する際、CPUの逐次的な介在を減らすDMAの働きとして適切なものはどれか。

- ア．CPU命令を暗号化して実行する
- イ．主記憶を不揮発化する
- ウ．入出力装置と主記憶のデータ転送をCPUの逐次介在を減らして行う
- エ．複数CPUのクロックを同期する

答え・解説

正答：ウ

ア：DMAは暗号化機能ではない。

イ：DMAは揮発性を変えない。

ウ：正答。DMAコントローラが入出力装置と主記憶の転送を担い、CPUの転送負荷を軽減する。

エ：DMAの目的はI/O転送の効率化である。

総合解説：DMAコントローラが入出力装置と主記憶の転送を担い、CPUの転送負荷を軽減する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0016

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：標準

32ビットのアドレスで1バイト単位にアドレス付けする場合、理論上のアドレス空間はどれか。

- ア．2GiB（31ビット分の空間とみなし半分しか表せない）
- イ．8GiB（33ビット相当となり32ビットを超える）
- ウ．32GiB（アドレスのビット数を容量値と混同）
- エ．4GiB（ 2^{32} 個の1バイト領域を表せる）

答え・解説

正答：エ

ア： 2^{31} バイトであり32ビット全域ではない。

イ： 2^{33} バイトで32ビットでは表せない。

ウ：ビット数をそのまま容量に対応させるのは誤りである。

エ：正答。 2^{32} 個のアドレスを1バイト単位で持つので 2^{32} バイト=4GiBである。

総合解説： 2^{32} 個のアドレスを1バイト単位で持つので 2^{32} バイト=4GiBである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0017

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：標準

ページ置換アルゴリズムLRUが置換対象として選ぶページはどれか。

- ア．最後に参照されてから最も長い時間が経過したページ
- イ．最初に主記憶へ入ったページ
- ウ．将来最も遅く参照されるページ
- エ．参照回数が最も多いページ

答え・解説

正答：ア

ア：正答。LRUはLeast Recently Usedの略で、最も長く使われていないページを置換する。

イ：これはFIFOの考え方である。

ウ：理論上の最適置換の説明に近い。

エ：LRUは回数ではなく最近の参照時刻を基準にする。

総合解説：LRUはLeast Recently Usedの略で、最も長く使われていないページを置換する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0018

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：標準

ユーザモードとカーネルモードを分ける主な理由はどれか。

- ア．アプリケーションのソースコードを短くする
- イ．重要なハードウェア資源やOS機能への不正・誤操作を制限する
- ウ．すべてのI/Oを高速化する
- エ．主記憶容量を自動的に増やす

答え・解説

正答：イ

ア：モード分離の目的ではない。

イ：正答。特権命令や重要資源へのアクセスをカーネルモードに限定し、誤動作や不正の影響を抑える。

ウ：保護のための切替にはオーバーヘッドもある。

エ：容量増加機能ではない。

総合解説：特権命令や重要資源へのアクセスをカーネルモードに限定し、誤動作や不正の影響を抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0019

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：応用

マルチコア化しても逐次実行部分が大きいのほど速度向上に限界が生じることを示す法則はどれか。

- ア．ムーアの法則
- イ．局所性の原理
- ウ．アムダールの法則
- エ．パレートの法則

答え・解説

正答：ウ

ア：半導体集積度の長期的傾向を表す経験則である。

イ：キャッシュの有効性を説明する考え方である。

ウ：正答。アムダールの法則は並列化できない割合が全体の速度向上率の上限を決めることを示す。

エ：並列化限界を示す法則ではない。

総合解説：アムダールの法則は並列化できない割合が全体の速度向上率の上限を決めることを示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0020

基礎理論・コンピュータシステム > コンピュータ構成・OS | 難易度：応用

仮想化環境でハイパーバイザの役割として最も適切なものはどれか。

- ア．全仮想マシンのアプリを同一ソースにする
- イ．ゲストOSのファイルを常に暗号化する
- ウ．物理サーバの障害を完全に無くす
- エ．物理資源を抽象化し複数の仮想マシンへ割り当てる

答え・解説

正答：エ

ア：アプリ統一は役割ではない。

イ：暗号化は必須役割ではない。

ウ：物理障害は発生し得る。

エ：正答。ハイパーバイザはCPU、メモリ、I/Oなどを抽象化・分配し、複数VMを分離して実行させる。

総合解説：ハイパーバイザはCPU、メモリ、I/Oなどを抽象化・分配し、複数VMを分離して実行させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0021

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：基礎

稼働率を $MTBF/(MTBF+MTTR)$ で表す。MTBF=900時間、MTTR=100時間の稼働率はどれか。

- ア．90% ($900 \div (900+100)$)
- イ．10% (停止割合と取り違え)
- ウ．81% (稼働率をさらに乗算)
- エ．99% (MTTRの影響を過小評価)

答え・解説

正答：ア

ア：正答。稼働率 $=900/(900+100)=0.9=90\%$ である。

イ：停止割合側の値である。

ウ：900/1000をさらに掛ける必要はない。

エ：与えられた値からは0.9である。

総合解説：稼働率 $=900/(900+100)=0.9=90\%$ である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0022

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：基礎

直列接続された独立な二要素の信頼度が0.9と0.8である。全体の信頼度はどれか。

- ア．0.98 (並列冗長の式と混同)
- イ．0.72 (0.9×0.8)
- ウ．0.85 (単純平均)
- エ．0.10 (故障確率の一部だけを使用)

答え・解説

正答：イ

ア：並列冗長の計算と混同している。

イ：正答。直列構成では両方正常である必要があるので $0.9 \times 0.8=0.72$ となる。

ウ：単純平均では求めない。

エ：故障確率の一部だけを用いた値である。

総合解説：直列構成では両方正常である必要があるので $0.9 \times 0.8=0.72$ となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0023

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：基礎

2台のサーバをアクティブ・スタンバイ構成にする主な目的はどれか。

- ア．処理を必ず二重実行し結果比較する
- イ．記憶容量を単純に2倍にする
- ウ．一方の障害時に待機系へ切り替えて可用性を高める
- エ．ネットワーク遅延を必ず半分にする

答え・解説

正答：ウ

ア：二重化照合など別方式である。

イ：主目的は容量増加ではない。

ウ：正答。稼働系の障害時に待機系へフェイルオーバーし、停止時間を短縮する。

エ：冗長化だけでは保証できない。

総合解説：稼働系の障害時に待機系へフェイルオーバーし、停止時間を短縮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0024

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

RPOが1時間であるバックアップ設計の意味として適切なものはどれか。

- ア．障害から1時間以内に必ず再開する
- イ．バックアップ処理が必ず1時間で終了する
- ウ．1時間ごとにサーバを再起動する
- エ．障害時に最大で約1時間分のデータ損失を許容する設計目標である

答え・解説

正答：エ

ア：これはRTOの説明である。

イ：バックアップ所要時間ではない。

ウ：再起動周期ではない。

エ：正答。RPOはどの時点までデータを復旧できればよいかを示し、許容データ損失量を時間で表す。

総合解説：RPOはどの時点までデータを復旧できればよいかを示し、許容データ損失量を時間で表す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0025

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

性能評価におけるスループットの説明として適切なものはどれか。

- ア．単位時間あたりに処理できる仕事量
- イ．1件の処理が完了するまでの時間
- ウ．故障から復旧するまでの平均時間
- エ．平均故障間隔

答え・解説

正答：ア

ア：正答。スループットは単位時間に完了できるトランザクション数やデータ量などを表す。

イ：応答時間等の説明である。

ウ：MTTRである。

エ：MTBFである。

総合解説：スループットは単位時間に完了できるトランザクション数やデータ量などを表す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0026

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

負荷増加時に応答時間が急激に悪化する原因として最も適切なものはどれか。

- ア．必ずCPUクロックが低下した状態
- イ．ボトルネック資源の飽和
- ウ．データ暗号化が解除された状態
- エ．バックアップ世代数が増えた状態

答え・解説

正答：イ

ア：I/Oやロックなどでも起こり得る。

イ：正答。CPU、I/O、ネットワーク、ロックなどの資源が飽和すると待ち行列が増え応答時間が悪化しやすい。

ウ：性能飽和の一般的説明ではない。

エ：直接の定義ではない。

総合解説：CPU、I/O、ネットワーク、ロックなどの資源が飽和すると待ち行列が増え応答時間が悪化しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0027

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

水平スケーリング（スケールアウト）の説明として適切なものはどれか。

- ア．1台のCPUやメモリを高性能化する
- イ．処理量を減らすためサービスを停止する
- ウ．サーバ台数を増やして処理能力を拡張する
- エ．データを必ず1台に集約する

答え・解説

正答：ウ

ア：これはスケールアップである。

イ：拡張方式ではない。

ウ：正答。スケールアウトはノードを追加して並列に処理能力を増やす方式である。

エ：スケールアウトと逆方向になり得る。

総合解説：スケールアウトはノードを追加して並列に処理能力を増やす方式である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0028

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：標準

長期平均で到着率が処理率を継続的に上回るとき、待ち行列はどうなるか。

- ア．必ず0になる
- イ．処理率が自動的に増える
- ウ．故障率だけが低下する
- エ．増大し、安定した定常状態を維持できない

答え・解説

正答：エ

ア：処理し切れないので待ちは増える。

イ：設備能力が自動増強されるとは限らない。

ウ：待ち行列の安定条件とは無関係である。

エ：正答。到着率がサービス率以上なら未処理仕事が増え、待ち行列は発散方向になる。

総合解説：到着率がサービス率以上なら未処理仕事が増え、待ち行列は発散方向になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0029

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：応用

二重化機器が同じ電源系統の障害で同時停止した。最も問題となる概念はどれか。

- ア．共通原因故障
- イ．局所参照性
- ウ．排他制御
- エ．正規化

答え・解説

正答：ア

ア：正答。冗長機器が電源、設置場所、ソフトウェア欠陥などを共有すると単一原因で同時停止する共通原因故障が起こる。

イ：メモリアクセス特性の概念である。

ウ：共有資源の同時更新制御である。

エ：DB設計の概念である。

総合解説：冗長機器が電源、設置場所、ソフトウェア欠陥などを共有すると単一原因で同時停止する共通原因故障が起こる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0030

基礎理論・コンピュータシステム > システム構成・性能・信頼性 | 難易度：応用

キャパシティ管理で行う活動として最も適切なものはどれか。

- ア．全障害の原因を監査部門だけで決定する
- イ．将来需要と資源使用状況を基に必要容量を計画する
- ウ．利用者のパスワードを代行変更する
- エ．必ず機器を増設する

答え・解説

正答：イ

ア：キャパシティ管理ではない。

イ：正答。現状の利用率と性能、将来需要を分析し、必要な資源を適時確保する。

ウ：容量計画とは無関係である。

エ：需要・性能・費用を評価して決める。

総合解説：現状の利用率と性能、将来需要を分析し、必要な資源を適時確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0031

データ・ネットワーク・セキュリティ > データベース | 難易度：基礎

関係データベースで、表の各行を一意に識別するために設定するキーはどれか。

- ア．外部キー
- イ．インデックス
- ウ．主キー
- エ．ビュー

答え・解説

正答：ウ

ア：他表のキーを参照して関係を表すために用いる。

イ：検索高速化には使えるが、行の論理的一意識別そのものではない。

ウ：正答。主キーは表の各行を一意に識別する属性または属性集合であり、NULLを許さない。

エ：仮想表であり行識別のキーではない。

総合解説：主キーは表の各行を一意に識別する属性または属性集合であり、NULLを許さない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0032

データ・ネットワーク・セキュリティ > データベース | 難易度：基礎

第3正規形への正規化で主に排除しようとするものはどれか。

- ア．すべての外部キー
- イ．主キー
- ウ．すべての重複値
- エ．非キー属性間の推移的関数従属

答え・解説

正答：エ

ア：外部キーは関係を表すため必要であり、排除対象ではない。

イ：主キーは一意識別に必要である。

ウ：値の重複そのものを完全禁止する概念ではない。

エ：正答。第3正規形では非キー属性が候補キーに直接従属するようにし、非キー属性を介した推移的従属を排除する。

総合解説：第3正規形では非キー属性が候補キーに直接従属するようにし、非キー属性を介した推移的従属を排除する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0033

データ・ネットワーク・セキュリティ > データベース | 難易度：基礎

SQLで、表EMPから部署コード='D01'の行だけを抽出する条件を指定する句はどれか。

- ア．WHERE
- イ．GROUP BY
- ウ．ORDER BY
- エ．HAVING

答え・解説

正答：ア

ア：正答。行単位の抽出条件はWHERE句で指定する。

イ：集約時のグループ化に用いる。

ウ：検索結果の並べ替えに用いる。

エ：GROUP BY後のグループに条件を指定するときに用いる。

総合解説：行単位の抽出条件はWHERE句で指定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0034

データ・ネットワーク・セキュリティ > データベース | 難易度：標準

トランザクションのACID特性のうち、一連の処理が『全部成功するか、全部取り消されるか』を保証する性質はどれか。

- ア．一貫性 (Consistency)
- イ．原子性 (Atomicity)
- ウ．独立性 (Isolation)
- エ．永続性 (Durability)

答え・解説

正答：イ

ア：整合性制約を満たす状態間で遷移する性質である。

イ：正答。原子性はトランザクション内の操作を不可分として扱い、途中失敗時には全体をロールバックする性質である。

ウ：同時実行トランザクションが相互に不適切な影響を与えない性質である。

エ：コミット後の結果が障害後も保持される性質である。

総合解説：原子性はトランザクション内の操作を不可分として扱い、途中失敗時には全体をロールバックする性質である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0035

データ・ネットワーク・セキュリティ > データベース | 難易度：標準

二つのトランザクションが互いに相手のロック解放を待ち続ける状態はどれか。

- ア．ダーティリード
- イ．ファントムリード
- ウ．デッドロック
- エ．ロストアップデート

答え・解説

正答：ウ

ア：未コミットデータを別トランザクションが読む現象である。

イ：同じ検索を繰り返したとき行集合が変わる現象である。

ウ：正答。ロック取得順序などにより循環待ちが発生すると、互いに先へ進めないデッドロックになる。

エ：更新が他の更新で上書きされる問題である。

総合解説：ロック取得順序などにより循環待ちが発生すると、互いに先へ進めないデッドロックになる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0036

データ・ネットワーク・セキュリティ > データベース | 難易度：標準

B+木インデックスが特に有効な検索はどれか。

- ア．暗号鍵の総当たり探索
- イ．画像の意味理解
- ウ．CPU命令の並列実行
- エ．キーの範囲検索

答え・解説

正答：エ

ア：DBインデックスの用途ではない。

イ：一般的なB+木の用途ではない。

ウ：データベース索引とは無関係である。

エ：正答。B+木はキー順を保持し、等価検索だけでなく範囲検索や順序走査にも適している。

総合解説：B+木はキー順を保持し、等価検索だけでなく範囲検索や順序走査にも適している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0037

データ・ネットワーク・セキュリティ>データベース | 難易度：標準

参照整合性制約の説明として適切なものはどれか。

- ア．外部キー値が参照先のキーとして存在するか、許される場合はNULLであることを保証する
- イ．すべての列に同じ値を格納する
- ウ．表の行数を常に一定に保つ
- エ．すべての文字列を暗号化する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。外部キーと参照先キーの関係を保ち、存在しない親行を参照する孤児データなどを防ぐ。
イ：参照整合性とは無関係である。
ウ：行数を固定する制約ではない。
エ：セキュリティ対策であり参照整合性ではない。
総合解説：外部キーと参照先キーの関係を保ち、存在しない親行を参照する孤児データなどを防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0038

データ・ネットワーク・セキュリティ>データベース | 難易度：標準

障害発生後、コミット済みトランザクションの更新をログから再適用する処理はどれか。

- ア．ROLLBACK
- イ．REDO
- ウ．NORMALIZE
- エ．CHECKPOINT

答え・解説

正答：イ

ア：通常は未完了トランザクションなどを取り消す処理である。
イ：正答。REDOはコミット済み更新がデータファイルへ反映されていない場合などに、ログを用いて再実行し永続性を確保する。
ウ：正規化の一般的英語表現であり障害回復処理名ではない。
エ：回復処理を効率化する節目であり、再適用そのものではない。
総合解説：REDOはコミット済み更新がデータファイルへ反映されていない場合などに、ログを用いて再実行し永続性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0039

データ・ネットワーク・セキュリティ > データベース | 難易度：応用

トランザクションの分離レベルを高くする一般的な効果として最も適切なものはどれか。

- ア．必ずデータ量が減る
- イ．必ず処理が高速になる
- ウ．同時実行による不整合を抑えやすい一方、並行性が低下することがある
- エ．バックアップが不要になる

答え・解説

正答：ウ

ア：分離レベルはデータ件数を減らす機能ではない。

イ：ロック競合などで遅くなる場合もある。

ウ：正答。強い分離はダーティリード等を防ぎやすいが、ロックや競合が増え、スループットとのトレードオフが生じる。

エ：分離制御とバックアップは別の課題である。

総合解説：強い分離はダーティリード等を防ぎやすいが、ロックや競合が増え、スループットとのトレードオフが生じる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0040

データ・ネットワーク・セキュリティ > データベース | 難易度：応用

データウェアハウスの用途として最も適切なものはどれか。

- ア．OSのプロセスをリアルタイムにスケジューリングする
- イ．暗号鍵を生成する専用装置として使う
- ウ．ルータの経路制御だけを行う
- エ．複数業務システムのデータを統合し、分析・意思決定に利用する

答え・解説

正答：エ

ア：OS機能でありDWHの用途ではない。

イ：DWHの役割ではない。

ウ：ネットワーク制御機能ではない。

エ：正答。データウェアハウスは業務データを時系列に蓄積・統合し、BIや分析、意思決定支援に用いる。

総合解説：データウェアハウスは業務データを時系列に蓄積・統合し、BIや分析、意思決定支援に用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0041

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：基礎

IPv4アドレスの長さは何ビットか。

- ア．32ビット（IPv4のアドレス長）
- イ．16ビット（IPv4より短い）
- ウ．64ビット（IPv4の規定長ではない）
- エ．128ビット（IPv6のアドレス長）

答え・解説

正答：ア

ア：正答。IPv4アドレスは32ビットで表現される。

イ：IPv4は16ビットではない。

ウ：IPv4は64ビットではない。

エ：128ビットはIPv6アドレスの長さである。

総合解説：IPv4アドレスは32ビットで表現される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0042

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：基礎

TCPの特徴として最も適切なものはどれか。

- ア．必ず暗号化を行う
- イ．コネクション型で、順序制御や再送制御を行う
- ウ．コネクションレスで再送を行わない
- エ．IPアドレスをDNS名へ変換する

答え・解説

正答：イ

ア：TCP自体は暗号化を必須としない。TLSなどを併用する。

イ：正答。TCPは接続を確立し、シーケンス番号や確認応答などで信頼性のある通信を提供する。

ウ：これはUDPの特徴に近い。

エ：これはDNSの役割である。

総合解説：TCPは接続を確立し、シーケンス番号や確認応答などで信頼性のある通信を提供する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0043

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：基礎

DNSの主な役割はどれか。

- ア．パケットを暗号化する
- イ．LAN内でMACアドレスを自動生成する
- ウ．ドメイン名とIPアドレスなどの情報を対応付ける
- エ．CPU負荷を分散する

答え・解説

正答：ウ

ア：DNSの主目的ではない。

イ：MACアドレス生成機能ではない。

ウ：正答。DNSは階層的な名前空間を用い、ホスト名などIPアドレス等のリソースレコードを対応付ける。

エ：間接的に使うことはあっても主役割は名前解決である。

総合解説：DNSは階層的な名前空間を用い、ホスト名などIPアドレス等のリソースレコードを対応付ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0044

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：標準

192.168.1.0/24のネットワークで、通常ホストに割り当て可能なIPv4アドレス数はどれか。

- ア．256個（ネットワーク・ブロードキャストも含む総数）
- イ．255個（1個だけ除外）
- ウ．128個（ホスト部7ビット相当）
- エ．254個（通常割当可能なホスト数）

答え・解説

正答：エ

ア：全256アドレスのうちネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを通常除く。

イ：除外すべきアドレスが一つではない。

ウ：/24は8ビットがホスト部なので総数は256である。

エ：正答。/24ではホスト部8ビットなので $2^8=256$ 個。通常はネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを除き254個。

総合解説：/24ではホスト部8ビットなので $2^8=256$ 個。通常はネットワークアドレスとブロードキャストアドレスを除き254個。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0045

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：標準

ルータが主として参照して転送先を決定する情報はどれか。

- ア．宛先IPアドレス
- イ．送信元のアプリケーション名
- ウ．ユーザの氏名
- エ．HTMLのタイトル

答え・解説

正答：ア

ア：正答。ルータは宛先IPアドレスとルーティングテーブルを照合し、次ホップや出力インタフェースを決定する。

イ：通常のIPルーティングの主要判断情報ではない。

ウ：IP転送には使わない。

エ：通常の経路選択には用いない。

総合解説：ルータは宛先IPアドレスとルーティングテーブルを照合し、次ホップや出力インタフェースを決定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0046

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：標準

社内LANのプライベートIPアドレスをインターネット接続時に変換するNATの機能として適切なものはどれか。

- ア．通信内容を必ず電子署名する
- イ．IPアドレスを変換し、プライベートアドレスとグローバルアドレスの間を中継できる
- ウ．DNS名を暗号化する
- エ．LANケーブルの物理断線だけを検出する

答え・解説

正答：イ

ア：NATは電子署名機能ではない。

イ：正答。NATはパケットのIPアドレス等を書き換え、内部のプライベートアドレスを外部通信に利用可能にする。

ウ：NATは名前解決暗号化ではない。

エ：NATはアドレス変換機能である。

総合解説：NATはパケットのIPアドレス等を書き換え、内部のプライベートアドレスを外部通信に利用可能にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0047

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：標準

HTTPSで一般に利用されるTLSの主な役割はどれか。

- ア．IPアドレスを自動付与する
- イ．経路選択を行う
- ウ．通信相手の認証や通信内容の暗号化・改ざん検知を支援する
- エ．MACアドレスをIPアドレスに変換する

答え・解説

正答：ウ

ア：DHCPの役割である。

イ：ルーティングの役割である。

ウ：正答。TLSは証明書等による認証、鍵共有、暗号化、メッセージ認証などで機密性・完全性・真正性を支援する。

エ：TLSとは無関係である。

総合解説：TLSは証明書等による認証、鍵共有、暗号化、メッセージ認証などで機密性・完全性・真正性を支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0048

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：標準

TCPで受信側の処理能力に合わせて送信量を調整する仕組みはどれか。

- ア．経路制御
- イ．名前解決
- ウ．圧縮
- エ．フロー制御

答え・解説

正答：エ

ア：どの経路を通すかを決める機能である。

イ：DNS等で名前とアドレスを対応付ける機能である。

ウ：データサイズを減らす処理であり受信窓制御とは異なる。

エ：正答。TCPでは受信ウィンドウなどを用い、受信側が処理・保持できる量を超えて送らないように調整する。

総合解説：TCPでは受信ウィンドウなどを用い、受信側が処理・保持できる量を超えて送らないように調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0049

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：応用

社内LANを複数の論理セグメントに分割し、ブロードキャストドメインを分離する技術はどれか。

- ア．VLAN
- イ．RAID
- ウ．SQL
- エ．NTP

答え・解説

正答：ア

ア：正答。VLANは物理構成に依存せず論理的にLANを分割し、ブロードキャストドメインや管理単位を分離できる。

イ：ディスク冗長化技術である。

ウ：データベース操作言語である。

エ：時刻同期プロトコルである。

総合解説：VLANは物理構成に依存せず論理的にLANを分割し、ブロードキャストドメインや管理単位を分離できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0050

データ・ネットワーク・セキュリティ > ネットワーク | 難易度：応用

負荷分散装置が複数Webサーバへリクエストを振り分けることで期待できる効果はどれか。

- ア．すべてのサーバ障害を物理的に防止できる
- イ．処理能力や可用性の向上
- ウ．通信内容が必ず暗号化される
- エ．DBの正規化が不要になる

答え・解説

正答：イ

ア：障害発生自体をゼロにはしない。

イ：正答。複数サーバへ負荷を分散し、障害ノードを振り分け対象から外すことで性能と可用性の向上に寄与する。

ウ：暗号化はTLSなど別機能である。

エ：負荷分散とDB設計は別問題である。

総合解説：複数サーバへ負荷を分散し、障害ノードを振り分け対象から外すことで性能と可用性の向上に寄与する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0051

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：基礎

情報セキュリティのCIAのうち、情報が許可なく変更されていないことを示す性質はどれか。

- ア．機密性
- イ．可用性
- ウ．完全性
- エ．否認防止

答え・解説

正答：ウ

ア：許可された者だけが情報へアクセスできる性質である。

イ：必要なときに情報やサービスを利用できる性質である。

ウ：正答。完全性は情報や処理が正確で完全であり、不正に改ざんされていないことを保つ性質である。

エ：行為の事実を後から否認しにくくする性質である。

総合解説：完全性は情報や処理が正確で完全であり、不正に改ざんされていないことを保つ性質である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0052

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：基礎

暗号学的ハッシュ関数の説明として適切なものはどれか。

- ア．同じ入力でも毎回必ず異なる値になる
- イ．出力から元データを必ず復号できる
- ウ．秘密鍵がなければ計算できない
- エ．入力から固定長のハッシュ値を得られ、元の入力を容易に逆算できない

答え・解説

正答：エ

ア：通常は同じ入力なら同じ出力になる。

イ：ハッシュは可逆暗号ではない。

ウ：一般的なハッシュ関数は秘密鍵を必須としない。

エ：正答。暗号学的ハッシュ関数には一方向性や衝突耐性が求められ、任意長入力から固定長出力を生成する。

総合解説：暗号学的ハッシュ関数には一方向性や衝突耐性が求められ、任意長入力から固定長出力を生成する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0053

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：基礎

公開鍵暗号で、受信者だけが復号できるように送信者が暗号化する場合、通常使う鍵はどれか。

- ア．受信者の公開鍵
- イ．送信者の公開鍵
- ウ．受信者の秘密鍵
- エ．送信者の秘密鍵

答え・解説

正答：ア

ア：正答。受信者の公開鍵で暗号化したデータは、対応する受信者の秘密鍵で復号する。

イ：受信者だけが復号できる仕組みにはならない。

ウ：秘密鍵は受信者が秘匿する。

エ：署名用途では用いるが、この暗号化の基本形ではない。

総合解説：受信者の公開鍵で暗号化したデータは、対応する受信者の秘密鍵で復号する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0054

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：標準

デジタル署名で主に確認できるものはどれか。

- ア．データ内容の機密性だけ
- イ．署名者の真正性とデータの改ざん有無
- ウ．通信速度の保証
- エ．バックアップの世代数

答え・解説

正答：イ

ア：署名自体は内容を秘匿しない。

イ：正答。署名検証により、対応する秘密鍵を持つ主体が署名したことで、署名後にデータが改ざんされていないことを確認できる。

ウ：署名は帯域や遅延を保証しない。

エ：署名とは無関係である。

総合解説：署名検証により、対応する秘密鍵を持つ主体が署名したことで、署名後にデータが改ざんされていないことを確認できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0055

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：標準

最小権限の原則として適切な運用はどれか。

- ア．全利用者に管理者権限を付与する
- イ．権限申請を行わず口頭で共有する
- ウ．利用者やプロセスに業務遂行に必要な最小限の権限だけを付与する
- エ．退職後も権限を残す

答え・解説

正答：ウ

ア：侵害時の影響を大きくする。

イ：統制や追跡性を損なう。

ウ：正答。必要最小限の権限に限定することで、誤操作やアカウント侵害時の影響を抑える。

エ：不要権限を残すことになる。

総合解説：必要最小限の権限に限定することで、誤操作やアカウント侵害時の影響を抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0056

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：標準

多要素認証の例として適切なものはどれか。

- ア．パスワードと秘密の質問
- イ．二つの異なるパスワード
- ウ．同じ指紋を2回読み取る
- エ．パスワードとスマートフォンの認証アプリを組み合わせる

答え・解説

正答：エ

ア：どちらも知識要素に偏る。

イ：いずれも知識要素である。

ウ：同一の生体要素を繰り返しても要素種類は増えない。

エ：正答。MFAでは知識、所持、生体など異なる種類の要素を組み合わせる。パスワード＋認証アプリは知識＋所持である。

総合解説：MFAでは知識、所持、生体など異なる種類の要素を組み合わせる。パスワード＋認証アプリは知識＋所持である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0057

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：標準

SQLインジェクション対策として最も基本的で有効なものはどれか。

- ア．プレースホルダを用いたパラメータ化クエリを使う
- イ．利用者入力をSQL文字列へ直接連結する
- ウ．DBのバックアップ回数だけを増やす
- エ．Webサーバの時計を合わせる

答え・解説

正答：ア

ア：正答。入力値をSQL構文として解釈させないよう、バインド変数やプレースホルダを使うことが基本である。

イ：SQL構造への注入を許しやすい。

ウ：復旧策であり注入防止にはならない。

エ：時刻同期は重要だが注入防止策ではない。

総合解説：入力値をSQL構文として解釈させないよう、バインド変数やプレースホルダを使うことが基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0058

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：標準

ランサムウェア対策として、復旧可能性を高める観点から特に重要なものはどれか。

- ア．全利用者に管理者権限を付与する
- イ．本番環境から分離されたバックアップを保持し、復元テストを行う
- ウ．バックアップを本番と同じ認証で常時書込み可能にする
- エ．ログを保存しない

答え・解説

正答：イ

ア：侵害拡大を助長する。

イ：正答。オフラインやイミュータブル等で本番から隔離されたバックアップと、定期的な復元確認が重要である。

ウ：バックアップも暗号化・削除される危険が高い。

エ：原因調査や検知を困難にする。

総合解説：オフラインやイミュータブル等で本番から隔離されたバックアップと、定期的な復元確認が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0059

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：応用

ゼロトラストの考え方として最も適切なものはどれか。

- ア：社内ネットワークからのアクセスは常に信頼する
- イ：認証は初回ログイン時だけ行えばよい
- ウ：ネットワークの内外だけで暗黙に信頼せず、アクセスごとに主体・端末・状況などを検証する
- エ：アクセス制御を廃止する

答え・解説

正答：ウ

ア：境界内部を暗黙に信頼する発想は合わない。

イ：継続的な評価を重視する考え方と異なる。

ウ：正答。ゼロトラストでは場所だけを信頼根拠にせず、アイデンティティ、端末状態、リスク等を基にアクセスを評価する。

エ：むしろ細粒度な認証・認可を重視する。

総合解説：ゼロトラストでは場所だけを信頼根拠にせず、アイデンティティ、端末状態、リスク等を基にアクセスを評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0060

データ・ネットワーク・セキュリティ > 情報セキュリティ | 難易度：応用

脆弱性対応でCVSSを利用する場合の注意として最も適切なものはどれか。

- ア：CVSSが低ければ必ず対応不要とする
- イ：CVSSが高ければ必ず攻撃済みと判断する
- ウ：CVSSをパスワード強度の指標として使う
- エ：CVSS値だけでなく、自組織の資産重要度・露出状況・悪用状況なども踏まえて優先度を決める

答え・解説

正答：エ

ア：組織固有の重要度や悪用状況によっては対応が必要である。

イ：CVSSは深刻度指標であり悪用事実そのものではない。

ウ：脆弱性の深刻度評価指標である。

エ：正答。技術的深刻度だけでなく、資産価値、露出、既知の悪用、代替策など組織固有の文脈を加味して優先順位を決める。

総合解説：技術的深刻度だけでなく、資産価値、露出、既知の悪用、代替策など組織固有の文脈を加味して優先順位を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0061

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：基礎

システム要件定義で最も重視すべきものはどれか。

- ア．利用者・業務上のニーズを、検証可能な要件として明確化する
- イ．実装担当者の好みだけで技術を決める
- ウ．テストを省略できるよう曖昧に記述する
- エ．導入後に考えるため要件を記録しない

答え・解説

正答：ア

ア：正答。要件はステークホルダのニーズを反映し、明確・一貫・追跡可能で、後工程で検証できる形にすることが重要である。

イ：要件定義は利害関係者ニーズを基に行う。

ウ：曖昧な要件は検証や受入れを困難にする。

エ：トレーサビリティや合意形成を損なう。

総合解説：要件はステークホルダのニーズを反映し、明確・一貫・追跡可能で、後工程で検証できる形にすることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0062

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：基礎

機能要件の例として最も適切なものはどれか。

- ア．平均応答時間を2秒以内にする
- イ．利用者が注文を登録すると在庫引当を行う
- ウ．年間稼働率を99.9%以上にする
- エ．通信をTLSで暗号化する

答え・解説

正答：イ

ア：性能に関する非機能要件である。

イ：正答。機能要件はシステムが何を行うかを定義する。注文登録に伴う在庫引当は業務機能である。

ウ：可用性に関する非機能要件である。

エ：セキュリティに関する非機能・制約要件である。

総合解説：機能要件はシステムが何を行うかを定義する。注文登録に伴う在庫引当は業務機能である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0063

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：基礎

要件トレーサビリティの主な目的はどれか。

- ア．ソースコードの行数を減らす
- イ．全ての要件変更を禁止する
- ウ．要件と設計・実装・テストなどの対応関係を追跡できるようにする
- エ．開発者の人事評価だけに使う

答え・解説

正答：ウ

ア：直接の目的ではない。

イ：変更を禁止せず、影響を追跡・管理する。

ウ：正答。要件から設計、コード、テスト、受入れまで双方向に追跡できると、変更影響分析や網羅性確認が容易になる。

エ：品質・変更管理上の追跡性が主目的である。

総合解説：要件から設計、コード、テスト、受入れまで双方向に追跡できると、変更影響分析や網羅性確認が容易になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0064

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：標準

モジュール設計において、一般に望ましい組合せはどれか。

- ア．低凝集・高結合
- イ．低凝集・低結合
- ウ．高凝集・高結合
- エ．高凝集・低結合

答え・解説

正答：エ

ア：変更影響が広がりやすく保守性が低い。

イ：結合は低いがモジュール内の責務がまとまりにくい。

ウ：内部まとまりは良くても他モジュールへの依存が強い。

エ：正答。モジュール内部の責務を関連の強いものにまとめ、モジュール間依存を小さくすると変更容易性が高まる。

総合解説：モジュール内部の責務を関連の強いものにまとめ、モジュール間依存を小さくすると変更容易性が高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0065

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：標準

UMLのユースケース図が主に表すものはどれか。

- ア．システム外部のアクターとシステムが提供する機能の関係
- イ．CPU内部の命令パイプライン
- ウ．DBの物理ブロック配置
- エ．テスト実行時間の推移

答え・解説

正答：ア

ア：正答。ユースケース図はアクターとユースケースの関係を示し、システム境界から見た要求機能を整理する。

イ：ハードウェア内部構造を表す図ではない。

ウ：ストレージ配置を表す図ではない。

エ：時系列の測定グラフではない。

総合解説：ユースケース図はアクターとユースケースの関係を示し、システム境界から見た要求機能を整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0066

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：標準

アーキテクチャ設計で関心事の分離を行う主な利点はどれか。

- ア．全機能を一つの巨大モジュールへ集約する
- イ．変更の影響範囲を限定し、理解・保守をしやすいとする
- ウ．設計文書を不要にする
- エ．障害を物理的に発生不能にする

答え・解説

正答：イ

ア：関心事の分離と逆である。

イ：正答。UI、業務ロジック、データアクセスなど異なる関心事を分離すると、各部分の変更・テスト・理解がしやすくなる。

ウ：分離しても設計記録は重要である。

エ：障害ゼロを保証しない。

総合解説：UI、業務ロジック、データアクセスなど異なる関心事を分離すると、各部分の変更・テスト・理解がしやすくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0067

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：標準

プロトタイプを要件定義段階で利用する目的として適切なものはどれか。

- ア．本番品質を満たすことを自動的に保証する
- イ．要件レビューを不要にする
- ウ．利用者との認識差を早期に発見し、要件を具体化する
- エ．全ての設計工程を省略する

答え・解説

正答：ウ

ア：試作は本番品質保証そのものではない。

イ：むしろ対話やレビューを支援する。

ウ：正答。画面や動作の試作を早期に示すことで、文章だけでは気づきにくい認識差や不足要件を確認できる。

エ：プロトタイプは設計・検証を補助する手段である。

総合解説：画面や動作の試作を早期に示すことで、文章だけでは気づきにくい認識差や不足要件を確認できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0068

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：標準

変更要求が発生したときの適切な対応はどれか。

- ア．影響を確認せず直ちに本番へ反映する
- イ．変更要求を全て拒否する
- ウ．記録せず開発者個人の判断だけで変更する
- エ．影響範囲・費用・納期・リスクを分析し、承認手続を経て反映する

答え・解説

正答：エ

ア：予期しない影響や統制不備につながる。

イ：必要な変更もあるため一律拒否は適切でない。

ウ：追跡性と統制を損なう。

エ：正答。変更は影響分析、優先度判断、承認、実装、テスト、記録といった統制された手続で管理する。

総合解説：変更は影響分析、優先度判断、承認、実装、テスト、記録といった統制された手続で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0069

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：応用

マイクロサービス化を検討する際の注意点として最も適切なものはどれか。

- ア．サービス間通信、分散トランザクション、監視など分散システム特有の複雑性が増える
- イ．必ずモノリシックより低コストになる
- ウ．ネットワーク障害の影響を受けなくなる
- エ．データ整合性の設計が不要になる

答え・解説

正答：ア

ア：正答。独立デプロイやスケールの利点がある一方、通信、観測性、障害伝播、データ整合性などの複雑性が増す。

イ：運用基盤や通信複雑性でコストが増える場合もある。

ウ：サービス間通信が増えるためネットワーク依存は重要になる。

エ：サービス境界をまたぐ整合性設計が課題になる。

総合解説：独立デプロイやスケールの利点がある一方、通信、観測性、障害伝播、データ整合性などの複雑性が増す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0070

開発・プロジェクト>システム開発・要件・設計 | 難易度：応用

非機能要件を『十分高速であること』とだけ記述した場合の問題点として最も適切なものはどれか。

- ア．必ず性能が向上する
- イ．合否を客観的に検証しにくい
- ウ．開発費が必ず下がる
- エ．セキュリティ要件へ自動変換される

答え・解説

正答：イ

ア：曖昧な要件は性能向上を保証しない。

イ：正答。応答時間、同時利用者数、測定条件などを定量化しないと、テストで要件を満たしたか客観的に判断できない。

ウ：認識差や手戻りを増やす可能性がある。

エ：そのような変換はない。

総合解説：応答時間、同時利用者数、測定条件などを定量化しないと、テストで要件を満たしたか客観的に判断できない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0071

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：基礎

単体テストの主な対象はどれか。

- ア．利用者による業務全体の受入れ
- イ．複数システム間の契約関係だけ
- ウ．個々のモジュールや関数などの小さな単位
- エ．運用部門の組織体制だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：受入れテストの説明である。

イ：結合・システムテスト等の範囲になり得る。

ウ：正答。単体テストは実装した最小単位のロジックを独立またはスタブ等を使って検証する。

エ：単体テストの対象ではない。

総合解説：単体テストは実装した最小単位のロジックを独立またはスタブ等を使って検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0072

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：基礎

ブラックボックステストの特徴はどれか。

- ア．必ずソースコードの全分岐を確認する
- イ．CPUの配線だけを確認する
- ウ．障害発生後のバックアップだけを確認する
- エ．内部構造ではなく入力と出力の仕様に着目してテストする

答え・解説

正答：エ

ア：内部構造に基づくのはホワイトボックステストである。

イ：ソフトウェア機能テストの説明ではない。

ウ：ブラックボックステストの定義ではない。

エ：正答。ブラックボックステストは外部仕様に基づき入力条件と期待結果を設計する。

総合解説：ブラックボックステストは外部仕様に基づき入力条件と期待結果を設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0073

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：基礎

同値分割法の目的として最も適切なものはどれか。

- ア：同じ挙動が期待される入力領域をグループ化し、代表値で効率よくテストする
- イ：すべての入力値を総当たりする
- ウ：内部の全分岐を100%通過させる
- エ：データベースを正規化する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。入力集合を同じ結果が期待される同値クラスへ分け、各クラスから代表値を選ぶ。
イ：同値分割はテスト数を合理的に削減する技法である。
ウ：カバレッジに関する観点である。
エ：テスト設計技法とは無関係である。
総合解説：入力集合を同じ結果が期待される同値クラスへ分け、各クラスから代表値を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0074

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：標準

境界値分析で優先的にテストすべき値はどれか。

- ア：常に中央値だけ
- イ：有効・無効範囲の境界付近の値
- ウ：ランダムな値1個だけ
- エ：本番データを無条件で全部使う

答え・解説

正答：イ

ア：境界条件の不具合を捉えにくい。
イ：正答。不具合は上限・下限、その直前・直後など境界付近に発生しやすいため重点的に確認する。
ウ：境界値分析の目的を満たさない。
エ：境界値分析は仕様境界に着目する。
総合解説：不具合は上限・下限、その直前・直後など境界付近に発生しやすいため重点的に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0075

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：標準

回帰テストの目的はどれか。

- ア．新規機能だけを一度確認する
- イ．障害原因を必ず一つに特定する
- ウ．変更によって既存機能に意図しない不具合が生じていないか確認する
- エ．要件定義を省略する

答え・解説

正答：ウ

ア：既存機能への影響確認が主目的である。

イ：原因分析そのものとは異なる。

ウ：正答。修正や機能追加後に既存テストを再実行し、変更の副作用を検出する。

エ：テスト目的とは無関係である。

総合解説：修正や機能追加後に既存テストを再実行し、変更の副作用を検出する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0076

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：標準

レビューによる静的テストの利点として適切なものはどれか。

- ア．実行時性能を必ず正確に測定できる
- イ．本番障害を完全に防止できる
- ウ．品質保証も不要になる
- エ．プログラムを実行する前に要件・設計・コードの欠陥を発見できる

答え・解説

正答：エ

ア：静的レビューだけでは実測できない。

イ：完全防止は保証できない。

ウ：他の品質保証活動も必要である。

エ：正答。ウォークスルーやインスペクション等で、後工程へ流出する前に仕様矛盾や設計ミスを見つけれ

れる。
総合解説：ウォークスルーやインスペクション等で、後工程へ流出する前に仕様矛盾や設計ミスを見つけれ

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0077

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：標準

分岐網羅で確認するものはどれか。

- ア．各判定結果の真・偽など、各分岐が少なくとも一度実行されたか
- イ．全ての入力値を試したか
- ウ．全ての要求が利用者に承認されたか
- エ．全SQLが正規化されたか

答え・解説

正答：ア

ア：正答。分岐網羅は判定の各結果が実行されたことを確認する指標である。

イ：分岐網羅の定義ではない。

ウ：要件レビューの観点である。

エ：DB設計の観点である。

総合解説：分岐網羅は判定の各結果が実行されたことを確認する指標である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0078

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：標準

欠陥密度を品質指標として使う場合の注意点として適切なものはどれか。

- ア．欠陥密度が低ければテストは不要である
- イ．規模の測定方法や欠陥の定義を統一しないと単純比較が危険である
- ウ．欠陥密度は必ず利用者満足度と同じ値になる
- エ．規模に関係なく欠陥件数だけを比較すればよい

答え・解説

正答：イ

ア：潜在欠陥や測定漏れがあるため不要にはならない。

イ：正答。KLOCやFPなど分母の定義、欠陥の重大度・計上基準、工程が異なると値の意味が変わるため前提をそろえる必要がある。

ウ：異なる概念である。

エ：密度は規模で正規化する意義がある。

総合解説：KLOCやFPなど分母の定義、欠陥の重大度・計上基準、工程が異なると値の意味が変わるため前提をそろえる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0079

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：応用

受入れテストで最も重要な観点はどれか。

- ア．開発者のコーディング規約だけを確認する
- イ．CPU命令のマイクロコードだけを確認する
- ウ．利用者・発注者の受入れ基準や業務要件を満たすか
- エ．試験データを一切使わない

答え・解説

正答：ウ

ア：受入れ判断の中心ではない。

イ：業務受入れの観点ではない。

ウ：正答。完成したシステムが契約・業務要件・受入れ基準を満たし、利用可能かを確認する。

エ：受入れ条件に応じ適切なデータを使用する。

総合解説：完成したシステムが契約・業務要件・受入れ基準を満たし、利用可能かを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0080

開発・プロジェクト>テスト・品質管理 | 難易度：応用

テスト自動化でUI変更のたびに大量のテストが壊れ、保守負荷が増えた。改善策として最も適切なものはどれか。

- ア．自動テストを全廃し以後は一切テストしない
- イ．失敗したテストを全て無視する
- ウ．本番だけで確認する
- エ．安定したインタフェース層でテストし、テストコードの設計・保守性も改善する

答え・解説

正答：エ

ア：品質リスクが高い。

イ：回帰検出能力を失う。

ウ：本番障害のリスクを高める。

エ：正答。壊れやすいUI直結テストに偏らず、単体・APIなど安定層へ配分し、変更影響を局所化する設計が重要である。

総合解説：壊れやすいUI直結テストに偏らず、単体・APIなど安定層へ配分し、変更影響を局所化する設計が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0081

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：基礎

プロジェクトのスコープを管理する主な目的はどれか。

- ア：必要な作業と成果物の範囲を明確にし、無秩序な範囲拡大を防ぐ
- イ：全リスクをゼロにする
- ウ：全メンバーの給与を決める
- エ：運用中の全障害を監査する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。スコープを定義・確認・統制し、必要作業を漏れなく含めつつ承認されていないスコープクリープを抑える。

イ：リスクを完全にゼロにはできない。

ウ：スコープ管理の主目的ではない。

エ：スコープ管理とは異なる。

総合解説：スコープを定義・確認・統制し、必要作業を漏れなく含めつつ承認されていないスコープクリープを抑える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0082

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：基礎

プロジェクトの成果物や作業を管理可能な単位へ階層的に分解して計画・管理するために用いるWBSの説明として適切なものはどれか。

- ア：ネットワーク経路表
- イ：プロジェクトの成果物や作業を管理可能な単位へ階層的に分解したもの
- ウ：データベースの索引構造
- エ：障害発生時のログ一覧だけ

答え・解説

正答：イ

ア：ルーティングテーブルの説明である。

イ：正答。WBSはプロジェクト全体を成果物・作業パッケージなどへ階層分解し、見積・担当・進捗管理の基礎とする。

ウ：インデックスの説明である。

エ：WBSはプロジェクト作業の分解構造である。

総合解説：WBSはプロジェクト全体を成果物・作業パッケージなどへ階層分解し、見積・担当・進捗管理の基礎とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0083

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：基礎

クリティカルパス上の作業が予定より3日遅れ、余裕時間も対策もない場合、一般にどうなるか。

- ア．完了日は必ず変わらない
- イ．必ず3日早く完了する
- ウ．プロジェクト完了も3日遅れる可能性が高い
- エ．コストだけが変わり納期には影響しない

答え・解説

正答：ウ

ア：クリティカルパスには通常総余裕がない。

イ：遅延なので逆である。

ウ：正答。クリティカルパスの作業には通常余裕がなく、その遅延はプロジェクト完了日に波及する。

エ：クリティカル作業の遅延は納期へ直接影響し得る。

総合解説：クリティカルパスの作業には通常余裕がなく、その遅延はプロジェクト完了日に波及する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0084

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

EVMでPV=100、EV=80、AC=90のとき、CPIはどれか。

- ア．0.80 (EV÷PVでSPIを算定)
- イ．1.11 (AC÷EVと逆に算定)
- ウ．1.25 (PV÷EVを算定)
- エ．約0.89 (EV÷ACでCPIを算定)

答え・解説

正答：エ

ア：これはEV/PVで求めるSPIである。

イ：AC/EVで逆に割った値に近い。

ウ：PV/EVでありCPIではない。

エ：正答。CPI=EV/AC=80/90≈0.89。1未満なのでコスト効率が悪い状態である。

総合解説：CPI=EV/AC=80/90≈0.89。1未満なのでコスト効率が悪い状態である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0085

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

EVMでSPIが0.8である場合の解釈として適切なものはどれか。

- ア．計画に対して進捗が遅れている
- イ．計画より進捗が進んでいる
- ウ．必ずコスト超過している
- エ．品質が20%向上している

答え・解説

正答：ア

ア：正答。SPI=EV/PVで、1未満は計画価値に対して出来高が不足し、スケジュール遅延傾向を示す。

イ：SPI>1なら進んでいる。

ウ：SPIはスケジュール指標でありコストはCPI等で見える。

エ：品質を直接示す指標ではない。

総合解説：SPI=EV/PVで、1未満は計画価値に対して出来高が不足し、スケジュール遅延傾向を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0086

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

リスク対応で『発生確率を下げるため、実績のある技術へ変更する』はどれに該当するか。

- ア．リスク受容
- イ．リスク軽減
- ウ．リスク移転
- エ．リスク回避

答え・解説

正答：イ

ア：対策せず影響を受け入れる方針である。

イ：正答。発生確率や影響度を下げる対策はリスク軽減に当たる。

ウ：契約や保険などで第三者へ影響を移す方針である。

エ：原因となる活動自体をやめるなどしてリスクを除去する対応である。

総合解説：発生確率や影響度を下げる対策はリスク軽減に当たる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0087

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

ステークホルダ管理で初期に行う活動として適切なものはどれか。

- ア．反対意見を持つ関係者を全員除外する
- イ．全関係者へ同じ情報を同じ頻度で送る
- ウ．関係者を特定し、関心・影響力・期待を把握する
- エ．プロジェクト終了後だけ説明する

答え・解説

正答：ウ

ア：重要な利害関係者を無視するとリスクが高まる。

イ：ニーズに応じた設計が必要である。

ウ：正答。誰が影響を受け、誰が意思決定力を持つかを特定し、関与戦略やコミュニケーションを設計する。

エ：早期から継続的に関与させる必要がある。

総合解説：誰が影響を受け、誰が意思決定力を持つかを特定し、関与戦略やコミュニケーションを設計する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0088

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：標準

変更要求を承認せず開発者が独自に機能追加した場合、最も直接的な問題はどれか。

- ア．必ず性能が向上する
- イ．WBSが自動的に最適化される
- ウ．監査証跡が強化される
- エ．変更統制が機能せず、スコープ・コスト・納期への影響を管理できない

答え・解説

正答：エ

ア：機能追加が性能向上を保証しない。

イ：むしろWBSとの不整合が生じる。

ウ：無記録・無承認なら追跡性は低下する。

エ：正答。変更要求は影響分析と承認を経てベースラインへ反映する必要がある、独自変更はスコープクリープ等を生む。

総合解説：変更要求は影響分析と承認を経てベースラインへ反映する必要がある、独自変更はスコープクリープ等を生む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0089

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：応用

品質管理で欠陥を発見・修正するだけでなく、プロセスを改善する理由はどれか。

- ア．欠陥の作り込みを減らし、再発防止と予防的品質向上を図るため
- イ．検査を完全に不要にするため
- ウ．品質とコストは無関係だから
- エ．要件を変更不能にするため

答え・解説

正答：ア

ア：正答。後工程で除去するだけでなく、原因分析や標準化でプロセス自体を改善すると欠陥流出と手戻りを減らせる。

イ：改善後も適切な検証は必要である。

ウ：品質問題は手戻り・障害コストへ影響する。

エ：品質改善の目的ではない。

総合解説：後工程で除去するだけでなく、原因分析や標準化でプロセス自体を改善すると欠陥流出と手戻りを減らせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0090

開発・プロジェクト>プロジェクトマネジメント | 難易度：応用

外部ベンダへ重要機能を委託するプロジェクトで、調達管理上最も重要なものはどれか。

- ア．口頭合意だけで開始し記録を残さない
- イ．成果物・責任分界・受入れ基準・変更手続を契約等で明確にする
- ウ．ベンダに全リスクを一方的に押し付ければ管理不要とする
- エ．納品後まで進捗確認を行わない

答え・解説

正答：イ

ア：責任や受入れ条件の認識差を招く。

イ：正答。委託では責任分界、品質、成果物、受入れ条件、変更・障害時対応などを明確にし、進捗・品質を継続管理する。

ウ：委託元にも管理責任が残る。

エ：早期問題発見ができずリスクが増える。

総合解説：委託では責任分界、品質、成果物、受入れ条件、変更・障害時対応などを明確にし、進捗・品質を継続管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0091

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：基礎

ITサービスマネジメントにおけるインシデント管理の主な目的はどれか。

- ア．インシデントの根本原因を必ず特定して恒久対策を完了する
- イ．すべての変更要求を承認する
- ウ．サービスを可能な限り迅速に正常な状態へ復旧し、事業への影響を最小化する
- エ．サービスの将来需要だけを予測する

答え・解説

正答：ウ

ア：根本原因の分析と恒久対策は主として問題管理で扱う。

イ：変更の評価・承認は変更管理の役割であり、インシデント管理の主目的ではない。

ウ：正答。インシデント管理は、障害やサービス品質低下が起きた際に、利用者への影響を抑えながらサービスを早期復旧することを重視する。

エ：需要・容量の予測はキャパシティ管理等の領域である。

総合解説：インシデント管理は、障害やサービス品質低下が起きた際に、利用者への影響を抑えながらサービスを早期復旧することを重視する。根本原因の除去は問題管理と連携して行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0092

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：基礎

同じ種類の障害が繰り返し発生している。ITサービスマネジメント上、根本原因を分析し再発防止を検討する活動はどれか。

- ア．インシデント管理
- イ．サービスレベル管理
- ウ．構成管理
- エ．問題管理

答え・解説

正答：エ

ア：個々のインシデントの迅速な復旧が中心であり、根本原因分析は問題管理の中心的活動である。

イ：SLAやサービス目標の合意・監視を扱う。

ウ：構成アイテムとその関係を管理するが、再発障害の根本原因分析そのものではない。

エ：正答。問題管理は、インシデントの背後にある原因を特定し、既知のエラーや恒久対策を管理して再発や影響を減らす。

総合解説：問題管理は、インシデントの背後にある原因を特定し、既知のエラーや恒久対策を管理して再発や影響を減らす。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0093

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：基礎

ITサービスの提供条件として可用性や応答時間などのサービスレベルを顧客と合意するSLAの説明として適切なものはどれか。

- ア．提供するサービスと合意したサービスレベルを、サービス提供者と顧客の間で明確にした合意
- イ．サービス提供者の内部作業手順だけを記載した文書
- ウ．障害原因を技術者だけで共有する記録
- エ．ソフトウェアの著作権を譲渡する契約

答え・解説

正答：ア

ア：正答。SLAは対象サービス、可用性、応答時間などのサービスレベル目標や責任を明確にし、サービス提供者と顧客の期待を合わせるために用いる。

イ：SLAは顧客との間で合意するサービス水準を扱う。

ウ：障害記録はSLAそのものではない。

エ：知的財産権契約でありSLAとは異なる。

総合解説：SLAは対象サービス、可用性、応答時間などのサービスレベル目標や責任を明確にし、サービス提供者と顧客の期待を合わせるために用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0094

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：標準

構成管理の対象として最も適切なものはどれか。

- ア．利用者の満足度だけ
- イ．サービス提供に必要なサーバ、ソフトウェア、設定情報などの構成アイテムとその関係
- ウ．経営者の報酬額だけ
- エ．売上予算だけ

答え・解説

正答：イ

ア：満足度はサービス評価に重要だが、構成管理の管理対象そのものではない。

イ：正答。構成管理では、サービスに関係する構成アイテム（CI）と属性・関係を把握し、変更影響分析や障害対応に利用できる状態を維持する。

ウ：ITサービスの構成アイテムとは無関係である。

エ：構成管理はサービスを構成する資産・設定・関係性を管理する。

総合解説：構成管理では、サービスに関係する構成アイテム（CI）と属性・関係を把握し、変更影響分析や障害対応に利用できる状態を維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0095

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：標準

本番環境への変更を安全に実施するための変更管理として、最も適切なものはどれか。

- ア．担当者の判断だけで即時に変更し、記録を残さない
- イ．変更後の確認を省略する
- ウ．変更のリスク・影響・実施計画・ロールバック方法を評価し、承認後に実施する
- エ．変更要求を種類に関係なく全て拒否する

答え・解説

正答：ウ

ア：無承認変更は障害や追跡不能のリスクを高める。

イ：変更が目的どおり成功したか、想定外影響がないか確認が必要である。

ウ：正答。変更管理では、必要性、影響、リスク、テスト、実施時期、責任者、復旧方法等を事前評価し、適切な承認と記録の下で変更する。

エ：必要な変更は評価・承認の上で実施すべきであり、一律拒否は適切でない。

総合解説：変更管理では、必要性、影響、リスク、テスト、実施時期、責任者、復旧方法等を事前評価し、適切な承認と記録の下で変更する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0096

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：標準

サービスデスクの役割として最も適切なものはどれか。

- ア．すべての経営戦略を単独で決定する
- イ．会計監査の意見表明だけを行う
- ウ．本番変更を無条件に承認する
- エ．利用者からの問合せやインシデントを受け付ける単一の窓口として連絡を調整する

答え・解説

正答：エ

ア：サービスデスクは経営意思決定機関ではない。

イ：監査部門の役割である。

ウ：変更承認は定められた変更管理プロセスに従う。

エ：正答。サービスデスクは利用者との主要な接点となり、問合せ、インシデント、サービス要求などを受付・記録し、必要な担当へエスカレーションする。

総合解説：サービスデスクは利用者との主要な接点となり、問合せ、インシデント、サービス要求などを受付・記録し、必要な担当へエスカレーションする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0097

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：標準

可用性管理の活動として最も適切なものはどれか。

- ア：サービスの可用性目標を満たすよう、停止要因や冗長化・保守性を分析し改善する
- イ：利用者のパスワードを全員同じ値にする
- ウ：全ての変更を停止する
- エ：データベースの正規化だけを実施する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。可用性管理では、サービス停止時間、障害頻度、復旧時間などを分析し、合意した可用性水準を費用対効果も考慮して達成・改善する。

イ：可用性向上策ではなく、セキュリティを損なう。

ウ：変更停止が恒常的な可用性管理策とはいえない。

エ：DB設計は重要だが可用性管理の全体目的ではない。

総合解説：可用性管理では、サービス停止時間、障害頻度、復旧時間などを分析し、合意した可用性水準を費用対効果も考慮して達成・改善する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0098

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：標準

ITサービス継続管理で優先的に検討すべき内容はどれか。

- ア：日常の問い合わせを全て経営者へ転送する
- イ：重大な中断時にも必要なサービスを許容時間内に復旧するための計画と訓練
- ウ：障害記録を削除して管理負荷を減らす
- エ：全サービスを同じ復旧優先度にする

答え・解説

正答：イ

ア：継続計画の中心ではない。

イ：正答。重大障害・災害時には、事業影響分析や復旧目標に基づき、重要サービスの復旧手順、代替手段、連絡体制を整え、訓練によって実効性を確認する。

ウ：証拠を失い、改善や復旧に不利である。

エ：事業影響に応じた優先順位付けが必要である。

総合解説：重大障害・災害時には、事業影響分析や復旧目標に基づき、重要サービスの復旧手順、代替手段、連絡体制を整え、訓練によって実効性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0099

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：応用

サービス改善のためにKPIを設定する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．測定しやすさだけで指標を選び、サービス目標との関係は考えない
- イ．KPIは一度決めたら環境が変わっても見直さない
- ウ．サービス目標との因果関係が明確で、継続的に測定・比較できる指標を選ぶ
- エ．値が悪いKPIは報告対象から外す

答え・解説

正答：ウ

ア：目標と結び付かない指標では改善判断を誤る。

イ：サービスや事業目標の変化に応じて妥当性を見直す必要がある。

ウ：正答。KPIはサービスの目標・成果と結び付き、定義や測定方法が一貫し、時系列で傾向を追えることが重要である。

エ：問題の可視化と改善に反し、統制上も不適切である。

総合解説：KPIはサービスの目標・成果と結び付き、定義や測定方法が一貫し、時系列で傾向を追えることが重要である。指標自体の妥当性も定期的に見直す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0100

サービス・監査・内部統制 > ITサービスマネジメント | 難易度：応用

クラウドサービスの障害が発生し、ベンダは復旧済みと報告したが利用部門では業務が再開できない。サービスマネジメント上の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．ベンダが復旧と述べた時点でインシデントを自動終了する
- イ．原因分析を行わず記録も残さない
- ウ．利用部門の確認を禁止する
- エ．技術的復旧だけでなく、利用者から見たサービス回復を確認し、影響・経過・再発防止を管理する

答え・解説

正答：エ

ア：利用者視点でサービスが回復していなければ終了判断は不適切である。

イ：再発防止やSLA評価に必要な情報を失う。

ウ：サービスの実利用状況を確認する必要がある。

エ：正答。サービス管理では技術コンポーネントの復旧だけでなく、利用者が業務を継続できる状態への回復を確認する。

総合解説：サービス管理では技術コンポーネントの復旧だけでなく、利用者が業務を継続できる状態への回復を確認する。必要に応じてベンダ管理、SLA評価、問題管理、改善へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0101

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：基礎

システム監査の基本的な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．情報システムに関するリスクへの対応が適切に整備・運用されているかを独立かつ客観的に評価し、改善に寄与する
- イ．監査人自身が業務システムを設計・運用して成果責任を負う
- ウ．全ての経営判断を監査人が代行する
- エ．障害を一件も発生させないことを保証する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。システム監査は、情報システムに係るリスクへのコントロールを独立・客観的立場から評価し、組織の目標達成や改善へ寄与する活動である。

イ：監査対象の管理責任を監査人が担うと独立性が損なわれる。

ウ：監査は評価・助言を行うが、経営責任を代替しない。

エ：監査は絶対保証を与えるものではない。

総合解説：システム監査は、情報システムに係るリスクへのコントロールを独立・客観的立場から評価し、組織の目標達成や改善へ寄与する活動である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0102

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：基礎

システム監査人の独立性に最も反する状況はどれか。

- ア．監査対象から必要資料の提供を受ける
- イ．監査人が直前まで自ら設計・運用していたシステムを、十分な独立性確保策なしに自ら監査する
- ウ．監査結果を経営層へ報告する
- エ．専門知識が必要なため外部専門家の助言を得る

答え・解説

正答：イ

ア：監査証拠収集の通常の活動であり、それだけで独立性は失われない。

イ：正答。自己レビューとなる状況では、監査人が自ら関与した設計・運用を客観的に評価しにくい。

ウ：監査結果の報告は監査活動の一部である。

エ：適切な管理の下で専門家を活用することは可能である。

総合解説：自己レビューとなる状況では、監査人が自ら関与した設計・運用を客観的に評価しにくい。担当変更など、独立性・客観性を確保する措置が必要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0103

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：基礎

リスクアプローチによる監査計画として最も適切なものはどれか。

- ア．全領域を重要度に関係なく同じ深さで監査する
- イ．監査対象部門が希望した項目だけを監査する
- ウ．重要なリスクが高い領域へ監査資源を重点的に配分する
- エ．過去に問題がなかった領域は将来も必ず監査不要とする

答え・解説

正答：ウ

ア：監査資源が有限であるため、リスクに応じた重点化が必要である。

イ：監査目的とリスク評価に基づき範囲を決める必要がある。

ウ：正答。監査では組織目標への影響、発生可能性、コントロール状況等を踏まえて監査優先順位を決め、重要リスクへ適切な監査資源を配分する。

エ：環境やリスクは変化するため固定的判断は不適切である。

総合解説：監査では組織目標への影響、発生可能性、コントロール状況等を踏まえて監査優先順位を決め、重要リスクへ適切な監査資源を配分する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0104

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：標準

監査証拠の『十分性』に最も関係するものはどれか。

- ア．証拠の関連性や信頼性
- イ．監査報告書の文字数
- ウ．監査人の所属部署名
- エ．監査結論を支えるために必要な証拠の量

答え・解説

正答：エ

ア：これは主として証拠の適切性・質に関係する。

イ：証拠の十分性とは無関係である。

ウ：証拠量の概念とは無関係である。

エ：正答。監査証拠は、結論を支えるのに足りる量（十分性）と、目的に関連し信頼できる質（適切性）の双方が重要である。

総合解説：監査証拠は、結論を支えるのに足りる量（十分性）と、目的に関連し信頼できる質（適切性）の双方が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0105

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：標準

監査証拠として、一般に信頼性がより高いと考えられるものはどれか。

- ア．監査人が独立した外部先から直接取得した確認結果
- イ．監査対象者から口頭で聞いただけで裏付けのない説明
- ウ．作成者・作成時期が不明なメモ
- エ．監査対象者が監査直前に手作業で作った集計だけ

答え・解説

正答：ア

ア：正答。証拠の信頼性は入手元、入手方法、統制状況などで異なる。

イ：説明は有用だが、単独では客観的な裏付けが弱い。

ウ：信頼性評価が困難である。

エ：原資料やシステム記録との整合を確認する必要がある。

総合解説：証拠の信頼性は入手元、入手方法、統制状況などで異なる。独立した外部から監査人が直接得た証拠は、一般に内部の口頭説明だけより信頼性が高い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0106

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：標準

監査調書を作成する主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．監査対象部門の業務記録を全て置き換える
- イ．実施した監査手続、得た証拠、判断過程と結論を記録し、監査品質の裏付けとする
- ウ．監査結果を公開する広告資料として使う
- エ．監査人の記憶だけに依存できるよう記録を減らす

答え・解説

正答：イ

ア：監査調書は業務記録の代替ではない。

イ：正答。監査調書は、監査計画、手続、証拠、分析、判断、結論を第三者が追跡できる形で記録し、レビューや品質管理の基礎とする。

ウ：監査調書は監査実施の証跡であり、一般公開資料とは限らない。

エ：むしろ客観的な記録を残すことが重要である。

総合解説：監査調書は、監査計画、手続、証拠、分析、判断、結論を第三者が追跡できる形で記録し、レビューや品質管理の基礎とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0107

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：標準

システム監査でサンプリングを用いる理由として最も適切なものはどれか。

- ア．標本を選べば母集団の誤りを必ず100%発見できる
- イ．監査手続を一切設計しなくてよくする
- ウ．母集団全件を調べることが非効率な場合に、目的に応じた標本から合理的な監査証拠を得る
- エ．不都合なデータを意図的に除外できる

答え・解説

正答：ウ

ア：サンプリングにはサンプリングリスクがある。

イ：抽出方法や標本数は監査目的・リスクに基づき設計する必要がある。

ウ：正答。全件検査が現実的でない場合、母集団特性と監査目的に応じた標本を選び証拠を得る。

エ：恣意的除外は監査の客観性を損なう。

総合解説：全件検査が現実的でない場合、母集団特性と監査目的に応じた標本を選び証拠を得る。標本誤差や抽出の偏りなどのリスクも考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0108

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：標準

監査報告書の指摘事項として最も望ましい記述はどれか。

- ア．監査人の印象だけを断定的に記述する
- イ．問題の原因や影響を確認せず『不適切』とだけ書く
- ウ．対象部門に配慮して重要な事実を削除する
- エ．確認した事実、評価基準、リスク・影響、結論を区別し、証拠に基づいて記述する

答え・解説

正答：エ

ア：客観的証拠と評価基準に基づく必要がある。

イ：改善につながる具体性と根拠が不足する。

ウ：重要事項を歪めると監査報告の信頼性を損なう。

エ：正答。監査報告では事実と意見を明確に分け、採用した評価基準と証拠に基づいて、リスクや影響を説明することが重要である。

総合解説：監査報告では事実と意見を明確に分け、採用した評価基準と証拠に基づいて、リスクや影響を説明することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0109

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：応用

監査後のフォローアップとして最も適切なものはどれか。

- ア．合意された改善対応の実施状況と、リスクが許容可能な状態になったかを確認する
- イ．監査報告を提出した時点で、その後の改善状況には一切関与しない
- ウ．監査人が対象部門に代わって全ての改善作業を実施する
- エ．改善が未実施でも記録を削除する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。監査後は改善計画の進捗、実施結果、残存リスクを確認し、必要に応じて経営層等へ報告する。
イ：フォローアップは改善状況や残存リスクを確認する重要な活動である。
ウ：改善実施責任を監査人が担うと独立性を損なうおそれがある。
エ：未対応リスクを見失うため不適切である。
総合解説：監査後は改善計画の進捗、実施結果、残存リスクを確認し、必要に応じて経営層等へ報告する。
監査人は改善の実施責任そのものを負わない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0110

サービス・監査・内部統制 > システム監査基礎 | 難易度：応用

監査対象システムで重大な設定不備を発見したが、監査人は原因の詳細をまだ確認できていない。最も適切な対応はどれか。

- ア．原因を推測して事実として報告する
- イ．確認済みの事実と未確認の推測を分け、重大性に応じて速やかに関係者へ伝達し追加手続を行う
- ウ．重大なリスクでも最終報告まで一切共有しない
- エ．証拠を残さず口頭注意だけで終了する

答え・解説

正答：イ

ア：未確認事項を断定すると監査の信頼性を損なう。
イ：正答。監査人は証拠に基づく事実と仮説を区別し、重大リスクは適時に報告する。
ウ：緊急性が高い場合は適時報告を検討する必要がある。
エ：重要事項は適切に記録し、必要な監査手続を実施する。
総合解説：監査人は証拠に基づく事実と仮説を区別し、重大リスクは適時に報告する。原因や影響が未確定なら追加手続を行い、監査調書に判断根拠を残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0111

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：基礎

内部統制の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．監査部門だけが実施する特別作業である
- イ．不正を完全にゼロにする絶対保証を与える
- ウ．組織の目的達成を阻害するリスクに対応するため、業務に組み込まれた仕組みとして整備・運用する
- エ．情報システムとは無関係に会計部門だけで行う

答え・解説

正答：ウ

ア：内部統制は経営者・各部門を含む組織全体の活動として業務に組み込まれる。

イ：内部統制には限界があり、合理的な保証を目指す。

ウ：正答。内部統制は、業務の有効性・効率性、報告の信頼性、法令遵守、資産保全などの目的達成を支える継続的なプロセスである。

エ：ITを含む業務プロセス全体に関係する。

総合解説：内部統制は、業務の有効性・効率性、報告の信頼性、法令遵守、資産保全などの目的達成を支える継続的なプロセスである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0112

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：基礎

IT全般統制（ITGC）の例として最も適切なものはどれか。

- ア．請求金額が単価×数量と一致するかを個々の取引で自動確認する
- イ．売上伝票の入力項目が必須かを画面で確認する
- ウ．請求書と入金額を取引単位で照合する
- エ．本番システムへのプログラム変更を申請・承認・テスト・移送の手続で管理する

答え・解説

正答：エ

ア：これは業務処理統制・アプリケーション統制の例である。

イ：個別アプリケーションの入力統制である。

ウ：業務処理統制の例である。

エ：正答。ITGCはアクセス管理、変更管理、システム開発・運用管理など、多くのアプリケーションの信頼性を支える基盤的統制である。

総合解説：ITGCはアクセス管理、変更管理、システム開発・運用管理など、多くのアプリケーションの信頼性を支える基盤的統制である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0113

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：基礎

アプリケーション統制の例として最も適切なものはどれか。

- ア：受注入力時に数量が0以下の場合はエラーとして登録を拒否する
- イ：データセンタ入退室をICカードで管理する
- ウ：OS管理者アカウントを定期棚卸しする
- エ：本番プログラムの変更を承認制にする

答え・解説

正答：ア

ア：正答。入力値の妥当性チェックは、個別業務処理の正確性・完全性を確保するアプリケーション統制の代表例である。

イ：物理的なIT全般統制に分類される。

ウ：アクセス管理に関するIT全般統制である。

エ：変更管理に関するIT全般統制である。

総合解説：入力値の妥当性チェックは、個別業務処理の正確性・完全性を確保するアプリケーション統制の代表例である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0114

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：標準

職務分掌の観点から最も問題が大きい状況はどれか。

- ア：登録者と承認者を分ける
- イ：同一担当者が取引の登録、承認、支払実行、事後照合まで全て行える
- ウ：支払実行権限を必要な担当者だけに限定する
- エ：定期的に権限一覧を管理者がレビューする

答え・解説

正答：イ

ア：不正・誤りを抑制する基本的な分掌である。

イ：正答。取引の起票、承認、資産の取扱い、記録・照合を一人に集中させると、不正や誤りを隠蔽しやすい。

ウ：最小権限と職務分掌に沿う。

エ：不適切な権限を検出する統制である。

総合解説：取引の起票、承認、資産の取扱い、記録・照合を一人に集中させると、不正や誤りを隠蔽しやすい。相互牽制が働くよう権限を分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0115

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：標準

予防的統制と発見的統制の組合せとして適切なものはどれか。

- ア．予防的統制：障害後のバックアップ復元 / 発見的統制：入力時の形式チェック
- イ．予防的統制：監査ログ分析 / 発見的統制：パスワード認証
- ウ．予防的統制：権限のない利用者のアクセス拒否 / 発見的統制：アクセスログの定期レビュー
- エ．予防的統制：事故報告 / 発見的統制：職務分掌

答え・解説

正答：ウ

ア：バックアップ復元は是正的、入力チェックは予防的な性格が強い。

イ：役割が逆である。

ウ：正答。予防的統制は不正・誤りの発生を事前に抑え、発見的統制は発生した異常を検出する。

エ：事故報告は事後的、職務分掌は予防的である。

総合解説：予防的統制は不正・誤りの発生を事前に抑え、発見的統制は発生した異常を検出する。アクセス拒否とログレビューは代表的な組合せである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0116

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：標準

退職者アカウントが数か月間有効なまま残っていた。最も直接的な統制上の問題はどれか。

- ア．バックアップ容量が不足している
- イ．ネットワーク帯域が不足している
- ウ．売上予算の設定が不適切である
- エ．ユーザIDのライフサイクル管理とアクセス権失効統制が不十分である

答え・解説

正答：エ

ア：退職者アカウント残存とは直接関係しない。

イ：アクセス権失効とは無関係である。

ウ：アカウント管理とは異なる。

エ：正答。入社・異動・退職など人事イベントに連動して、アカウント作成・変更・停止を迅速に行い、定期棚卸しで残存権限を検出する必要がある。

総合解説：入社・異動・退職など人事イベントに連動して、アカウント作成・変更・停止を迅速に行い、定期棚卸しで残存権限を検出する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0117

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：標準

本番環境への緊急変更で通常の事前承認を省略した。統制上、最も適切な補完策はどれか。

- ア：緊急変更の条件を限定し、実施記録を残し、事後承認・レビューを速やかに行う
- イ：緊急なら変更記録を残さない
- ウ：緊急変更専用IDを全員で共有する
- エ：変更後テストを必ず省略する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。緊急時には通常手続を短縮することがあっても、適用条件、実施者、変更内容、影響、事後承認・レビューなどを統制し、例外が常態化しないようにする。

イ：追跡性が失われ、統制が弱くなる。

ウ：責任追跡性が低下する。

エ：障害や副作用を見逃すため不適切である。

総合解説：緊急時には通常手続を短縮することがあっても、適用条件、実施者、変更内容、影響、事後承認・レビューなどを統制し、例外が常態化しないようにする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0118

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：標準

インタフェースでAシステムからBシステムへ100件送信したが、Bでは98件しか受信されていない。完全性を確認する統制として最も適切なものはどれか。

- ア：送信ファイル名を毎回変えるだけ
- イ：送受信件数や合計値のコントロールトータルを照合し、不一致を検知・再処理する
- ウ：担当者の記憶だけで受信件数を確認する
- エ：不一致があっても処理済みとみなす

答え・解説

正答：イ

ア：件数欠落の検知にはならない。

イ：正答。システム間連携では件数、金額合計、ハッシュトータルなどを送受信双方で照合し、欠落・重複・改ざんを検出して例外処理する。

ウ：客観的な完全性統制として弱い。

エ：データ欠落を放置することになる。

総合解説：システム間連携では件数、金額合計、ハッシュトータルなどを送受信双方で照合し、欠落・重複・改ざんを検出して例外処理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0119

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：応用

経営者による統制無視（management override）への対応として最も適切なものはどれか。

- ア．経営者の操作は必ず正しいと仮定して監視対象外にする
- イ．管理者権限の操作ログを保存しない
- ウ．重要な例外取引や特権操作を記録・独立レビューし、経営者であっても統制逸脱を可視化する
- エ．例外承認を口頭だけにする

答え・解説

正答：ウ

ア：統制無視リスクを高める。

イ：不正や誤りの追跡が困難になる。

ウ：正答。権限の強い者が通常統制を迂回できる場合、特権操作ログ、例外取引レビュー、独立した承認・監督などにより統制無視を検出・抑制する必要がある。

エ：事後検証が困難である。

総合解説：権限の強い者が通常統制を迂回できる場合、特権操作ログ、例外取引レビュー、独立した承認・監督などにより統制無視を検出・抑制する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0120

サービス・監査・内部統制 > 内部統制・IT統制 | 難易度：応用

IT統制を評価したところ、自動入力チェックは適切だが、そのチェックロジックを本番で無承認変更できることが判明した。最も適切な評価はどれか。

- ア．入力チェックが一度動作したので、変更管理の不備は無関係である
- イ．変更管理が弱いほど自動統制の信頼性は高まる
- ウ．IT全般統制はアプリケーション統制と独立しており、相互影響はない
- エ．アプリケーション統制が設計上有効でも、変更管理のIT全般統制不備により継続的な信頼性が損なわれる

答え・解説

正答：エ

ア：基盤統制が弱いと自動統制のロジック自体を不正変更できる。

イ：逆である。

ウ：自動統制の信頼性はアクセス・変更管理等のITGCに依存する。

エ：正答。自動統制の結果へ依拠するには、プログラムや設定が承認された状態で維持されていることが重要である。

総合解説：自動統制の結果へ依拠するには、プログラムや設定が承認された状態で維持されていることが重要である。変更管理等のITGC不備は、アプリケーション統制の継続的有効性に影響する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0121

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：基礎

SWOT分析で『自社の高い技術力』に該当するものはどれか。

- ア．Strength（強み）
- イ．Weakness（弱み）
- ウ．Opportunity（機会）
- エ．Threat（脅威）

答え・解説

正答：ア

ア：正答。SWOTでは内部環境を強み・弱み、外部環境を機会・脅威に分類する。

イ：内部環境の不利な要因を表す。

ウ：外部環境の有利な要因を表す。

エ：外部環境の不利な要因を表す。

総合解説：SWOTでは内部環境を強み・弱み、外部環境を機会・脅威に分類する。自社固有の高い技術力は内部の強みである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0122

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：基礎

PEST分析で主に分析する対象はどれか。

- ア．自社の業務手順だけ
- イ．政治・経済・社会・技術といったマクロな外部環境
- ウ．個々のプログラムのソースコード
- エ．会計伝票の承認権限だけ

答え・解説

正答：イ

ア：内部業務分析の対象でありPESTの中心ではない。

イ：正答。PESTはPolitical、Economic、Social、Technologicalの観点から、企業を取り巻くマクロ環境の変化を整理する。

ウ：技術監査の対象にはなり得るがPEST分析ではない。

エ：内部統制の個別事項である。

総合解説：PESTはPolitical、Economic、Social、Technologicalの観点から、企業を取り巻くマクロ環境の変化を整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0123

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：基礎

バランススコアカード（BSC）の代表的な四つの視点として適切な組合せはどれか。

- ア．売上、在庫、給与、税金
- イ．CPU、メモリ、ディスク、ネットワーク
- ウ．財務、顧客、内部ビジネスプロセス、学習と成長
- エ．計画、実行、監査、廃棄

答え・解説

正答：ウ

ア：会計項目の列挙でありBSCの四視点ではない。

イ：IT資源の分類である。

ウ：正答。BSCは財務だけでなく、顧客、内部プロセス、学習と成長の視点を組み合わせ、戦略を具体的な目標・指標へ展開する。

エ：BSCの標準的な四視点ではない。

総合解説：BSCは財務だけでなく、顧客、内部プロセス、学習と成長の視点を組み合わせ、戦略を具体的な目標・指標へ展開する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0124

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：標準

経営戦略と情報システム戦略の関係として最も適切なものはどれか。

- ア．IT部門の都合だけで独立に決める
- イ．新技術を導入すること自体を最終目的とする
- ウ．経営戦略が変わっても情報システム戦略は見直さない
- エ．情報システム戦略は経営目標・事業戦略を実現するために整合させる

答え・解説

正答：エ

ア：経営との不整合により投資効果を損なう。

イ：技術導入は事業価値やリスクへの寄与で評価すべきである。

ウ：環境・戦略変化に応じた見直しが必要である。

エ：正答。IT投資やアーキテクチャは、経営課題、競争戦略、業務変革の方向性を支えるように優先順位付けし、継続的に整合性を確認する。

総合解説：IT投資やアーキテクチャは、経営課題、競争戦略、業務変革の方向性を支えるように優先順位付けし、継続的に整合性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0125

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：標準

CSF (Critical Success Factor) とKPIの関係として最も適切なものはどれか。

- ア．CSFは成功に不可欠な重要要因を示し、KPIはその達成状況を測る指標として使える
- イ．CSFとKPIは必ず同じ数値である
- ウ．KPIは戦略と無関係な測りやすい値だけを選ぶ
- エ．CSFは会計監査だけで使用する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。重要成功要因を具体化し、その状態を定量・定性指標で継続測定することで、戦略実行の進捗を管理できる。

イ：概念が異なり、CSFは要因、KPIは測定指標である。

ウ：戦略目標やCSFと結び付ける必要がある。

エ：経営・事業戦略等で幅広く用いられる。

総合解説：重要成功要因を具体化し、その状態を定量・定性指標で継続測定することで、戦略実行の進捗を管理できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0126

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：標準

新規IT投資のROIを単純に『年間利益増加額÷投資額』で評価する際の注意点として最も適切なものはどれか。

- ア．ROIは投資効果の比較には一切使えない
- イ．効果発生時期、継続期間、リスク、資本コストなど時間価値を十分に反映しない場合がある
- ウ．ROIが正なら必ず資金繰りも安全である
- エ．ROIは売上高だけで計算する指標である

答え・解説

正答：イ

ア：簡便な指標として有用だが限界を理解して使う。

イ：正答。ROIは理解しやすい一方、複数年投資ではキャッシュフローの時期や割引率を扱わないことがある。

ウ：キャッシュフローの時期や資金調達条件は別途確認が必要である。

エ：利益や投資額等を用いる比率であり売上高だけではない。

総合解説：ROIは理解しやすい一方、複数年投資ではキャッシュフローの時期や割引率を扱わないことがある。NPV等と併用し、定性的効果やリスクも検討する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0127

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：標準

正味現在価値（NPV）法で投資案を評価する考え方として適切なものはどれか。

- ア．将来の金額を時間価値を考えず単純合計するだけ
- イ．利益率が最も低い案を選ぶ
- ウ．将来キャッシュフローを割引率で現在価値に換算し、初期投資との差を評価する
- エ．投資額を無視して売上だけ比較する

答え・解説

正答：ウ

ア：NPVは時間価値を考慮する。

イ：NPVは価値増加への寄与を評価する。

ウ：正答。NPVは将来得られるキャッシュフローを要求収益率などで割り引き、初期投資を差し引いた現在価値で投資価値を判断する。

エ：初期投資を含むキャッシュフロー全体を評価する。

総合解説：NPVは将来得られるキャッシュフローを要求収益率などで割り引き、初期投資を差し引いた現在価値で投資価値を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0128

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：標準

バリューチェーン分析の主な目的はどれか。

- ア．ネットワークの通信経路だけを分析する
- イ．財務諸表を監査する手順だけを示す
- ウ．パスワード強度を測定する
- エ．企業活動を価値創出の連鎖として捉え、競争優位や改善余地を分析する

答え・解説

正答：エ

ア：企業活動全体の価値創出分析とは異なる。

イ：経営戦略分析の枠組みである。

ウ：セキュリティ評価の話である。

エ：正答。調達、製造、販売、サービス等の主活動と支援活動を価値創出の流れとして捉え、コスト優位・差別化・連携改善の機会を探る。

総合解説：調達、製造、販売、サービス等の主活動と支援活動を価値創出の流れとして捉え、コスト優位・差別化・連携改善の機会を探る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0129

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：応用

デジタルトランスフォーメーション（DX）を戦略として評価する際、最も適切な観点はどれか。

- ア．デジタル技術の導入件数ではなく、顧客価値・業務・組織・ビジネスモデルの変革成果を見る
- イ．クラウド製品を購入した時点でDX成功と判断する
- ウ．紙をPDF化すれば必ず競争優位が生まれる
- エ．既存業務を一切見直さず最新技術だけ追加する

答え・解説

正答：ア

ア：正答。DXはデジタル技術を活用して顧客提供価値、業務プロセス、組織能力、ビジネスモデルを変革し、競争力や持続的価値を高めることが中心である。

イ：技術導入は手段であり、事業変革の成果が必要である。

ウ：単純デジタル化と事業変革は同義ではない。

エ：変革効果が限定され、複雑性だけ増える可能性がある。

総合解説：DXはデジタル技術を活用して顧客提供価値、業務プロセス、組織能力、ビジネスモデルを変革し、競争力や持続的価値を高めることが中心である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0130

ストラテジ・企業・法務 > 経営戦略・システム戦略 | 難易度：応用

複数のIT投資案件から優先順位を決める際、最も適切な方法はどれか。

- ア．申請順に無条件で採択する
- イ．戦略適合性、期待効果、リスク、法令対応、依存関係、必要資源など複数の基準でポートフォリオとして評価する
- ウ．投資額が最も大きい案件を必ず最優先にする
- エ．各部門が個別最適で決め、全社の重複を確認しない

答え・解説

正答：イ

ア：戦略価値やリスクを反映できない。

イ：正答。限られた資源を配分するには、案件単体の採算だけでなく、全社戦略との整合、リスク、規制上の必須性、相互依存、実行能力を総合して優先順位を決める。

ウ：金額の大きさと価値は同じではない。

エ：重複投資や全社最適との不整合が生じる。

総合解説：限られた資源を配分するには、案件単体の採算だけでなく、全社戦略との整合、リスク、規制上の必須性、相互依存、実行能力を総合して優先順位を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0131

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：基礎

貸借対照表（B/S）が主に示すものはどれか。

- ア．一定期間の収益と費用だけ
- イ．一定期間の現金増減だけ
- ウ．一定時点における資産、負債、純資産の状況
- エ．将来の販売数量だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：これは主として損益計算書の内容である。

イ：これはキャッシュフロー計算書の中心である。

ウ：正答。貸借対照表は決算日など一定時点の財政状態を、資産・負債・純資産に分けて示す。

エ：予算・需要予測であり貸借対照表の内容ではない。

総合解説：貸借対照表は決算日など一定時点の財政状態を、資産・負債・純資産に分けて示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0132

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：基礎

損益計算書（P/L）が主に示すものはどれか。

- ア．一定時点の資産と負債だけ
- イ．株主名簿だけ
- ウ．サーバの稼働率だけ
- エ．一定期間の収益、費用と利益

答え・解説

正答：エ

ア：これは貸借対照表の中心である。

イ：財務諸表の損益表示ではない。

ウ：会計報告とは無関係である。

エ：正答。損益計算書は一定会計期間に発生した収益と費用を対応させ、各段階の利益を示す。

総合解説：損益計算書は一定会計期間に発生した収益と費用を対応させ、各段階の利益を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0133

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：基礎

流動資産が600、流動負債が400のとき、流動比率はどれか。

- ア．150% ($600 \div 400 \times 100$)
- イ．67% ($400 \div 600 \times 100$ と逆算)
- ウ．100% (資産と負債が同額と仮定)
- エ．200% ($600 \div 400$ を2と誤算)

答え・解説

正答：ア

ア：正答。流動比率=流動資産÷流動負債×100=600÷400×100=150%である。

イ：400÷600×100であり、分子と分母が逆である。

ウ：流動資産と流動負債が同額の場合の値である。

エ：600÷400は1.5であり2.0ではない。

総合解説：流動比率=流動資産÷流動負債×100=600÷400×100=150%である。短期的な支払能力を見る代表的な指標の一つである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0134

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：標準

売上高1,000、変動費600、固定費300のとき、営業上の利益はいくらか。

- ア．400 (売上高から変動費だけを控除)
- イ．100 (売上高から変動費・固定費を控除)
- ウ．300 (固定費だけを答える)
- エ．700 (売上高から固定費だけを控除)

答え・解説

正答：イ

ア：売上高から変動費だけを引いた限界利益であり、固定費を控除していない。

イ：正答。利益=売上高-変動費-固定費=1,000-600-300=100である。

ウ：固定費そのものである。

エ：売上高から固定費だけを引いており変動費を考慮していない。

総合解説：利益=売上高-変動費-固定費=1,000-600-300=100である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0135

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：標準

固定費300、製品1個当たり販売価格10、1個当たり変動費6のとき、損益分岐点販売数量はどれか。

- ア．30個（固定費を販売価格だけで除算）
- イ．50個（限界利益を誤って6とする）
- ウ．75個（ $300 \div (10 - 6)$ ）
- エ．150個（限界利益を誤って2とする）

答え・解説

正答：ウ

ア：固定費を販売価格10だけで割った値で、1個当たり変動費6を考慮していない。

イ：1個当たり限界利益は $10 - 6 = 4$ であり、6をそのまま用いるのは誤りである。

ウ：正答。1個当たり限界利益は $10 - 6 = 4$ 、損益分岐点数量は $300 \div 4 = 75$ 個である。

エ：固定費300を正しい限界利益4で割ると75個であり、150個にはならない。

総合解説：1個当たり限界利益 $= 10 - 6 = 4$ 。損益分岐点数量 $=$ 固定費 $300 \div 4 = 75$ 個である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0136

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：標準

減価償却の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．固定資産購入時に必ず全額を当期費用にすること
- イ．現金支出が每期同額発生すること
- ウ．負債を自動的に免除すること
- エ．長期間使用する固定資産の取得原価を、使用期間などにわたって費用配分する

答え・解説

正答：エ

ア：減価償却は取得原価を複数期間へ配分する考え方である。

イ：減価償却費は非現金費用であり、取得時の支出とは時期が異なる。

ウ：負債免除とは無関係である。

エ：正答。建物や設備などの取得原価を、その資産が収益獲得に貢献する期間へ合理的に配分する会計処理が減価償却である。

総合解説：建物や設備などの取得原価を、その資産が収益獲得に貢献する期間へ合理的に配分する会計処理が減価償却である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0137

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：標準

キャッシュフロー計算書の役割として最も適切なものはどれか。

- ア．営業・投資・財務などの活動区分で現金及び現金同等物の増減を示す
- イ．利益と現金増減は常に一致することを示す
- ウ．資産の時価を全て示す
- エ．組織図を示す

答え・解説

正答：ア

ア：正答。損益上は利益が出ていても現金が不足することがあるため、営業・投資・財務活動ごとの資金流入出を把握することが重要である。

イ：売掛金や減価償却などにより一致しないことがある。

ウ：キャッシュフロー計算書の主目的ではない。

エ：財務諸表とは無関係である。

総合解説：損益上は利益が出ていても現金が不足することがあるため、営業・投資・財務活動ごとの資金流入出を把握することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0138

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：標準

在庫を必要以上に大量保有することの財務・業務上のリスクとして最も適切なものはどれか。

- ア．必ず売上が同じ割合で増える
- イ．資金が在庫に固定され、保管費や陳腐化・評価損のリスクが増える
- ウ．現金残高が自動的に増える
- エ．在庫管理が不要になる

答え・解説

正答：イ

ア：在庫増加だけで需要や売上は保証されない。

イ：正答。過剰在庫は運転資金を拘束し、保管コスト、廃棄、陳腐化、棚卸差異等のリスクを増やすため、需要と供給を踏まえた適正在庫管理が必要である。

ウ：在庫購入は通常現金を減らす方向に働く。

エ：数量が増えるほど管理負荷はむしろ高くなる。

総合解説：過剰在庫は運転資金を拘束し、保管コスト、廃棄、陳腐化、棚卸差異等のリスクを増やすため、需要と供給を踏まえた適正在庫管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0139

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：応用

売上高は増加しているのに営業キャッシュフローが悪化している。考えられる要因として最も適切なものはどれか。

- ア．減価償却費が計上されたため必ず現金が同額流出した
- イ．売上増加なら営業キャッシュフローは必ず増える
- ウ．売掛金が急増し、売上が現金回収につながっていない
- エ．貸借対照表はキャッシュフローと一切関係しない

答え・解説

正答：ウ

ア：減価償却費自体は非現金費用である。

イ：回収条件や在庫、仕入支払などで逆の動きもあり得る。

ウ：正答。掛売上が増えても未回収なら利益は計上される一方、現金は入らない。

エ：運転資本項目の変動は営業キャッシュフローへ影響する。

総合解説：掛売上が増えても未回収なら利益は計上される一方、現金は入らない。売掛金や在庫など運転資本の増加は営業キャッシュフローを圧迫し得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0140

ストラテジ・企業・法務 > 企業活動・会計 | 難易度：応用

IT投資プロジェクトの管理会計で、当初予算と実績の差異が拡大している。最も適切な対応はどれか。

- ア．差異が大きくても当初予算を変更せず原因分析もしない
- イ．実績値を予算に合わせて修正する
- ウ．費用超過の情報を関係者へ報告しない
- エ．差異を費目・原因別に分析し、残作業・リスクを再見積りして経営判断に反映する

答え・解説

正答：エ

ア：将来見通しや意思決定を誤る。

イ：会計記録や管理情報の信頼性を損なう。

ウ：適時な是正・意思決定を妨げる。

エ：正答。予算差異は単に結果を比較するだけでなく、数量・単価・スコープ変更・遅延など原因を分析し、EAC等の将来見積りや対策へ反映することが重要である。

総合解説：予算差異は単に結果を比較するだけでなく、数量・単価・スコープ変更・遅延など原因を分析し、EAC等の将来見積りや対策へ反映することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0141

ストラテジ・企業・法務＞法務・標準化 | 難易度：基礎

著作権による保護の対象に関する説明として最も適切なものはどれか。

ア．創作的に表現されたプログラムや文章などは著作物となり得るが、単なるアイデアそのものは原則として表現とは区別される

イ．アイデアを思いついただけで、その内容の利用を著作権で常に独占できる

ウ．他人の著作物は出典を書けば常に自由に全文複製できる

エ．プログラムは著作権の対象になり得ない

答え・解説

正答：ア

ア：正答。IT分野ではプログラム、仕様書、画像、文章等の著作物を扱う。

イ：著作権は表現を保護する制度であり、抽象的アイデアそのものとは区別される。

ウ：引用等には要件があり、出典表示だけで無制限利用できるわけではない。

エ：プログラムも著作物として保護対象となり得る。

総合解説：IT分野ではプログラム、仕様書、画像、文章等の著作物を扱う。著作権は創作的な表現を保護し、アイデアや事実そのものとは区別して考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0142

ストラテジ・企業・法務＞法務・標準化 | 難易度：基礎

営業秘密としての保護を受けるための基本的な考え方として最も適切なものはどれか。

ア．社内情報であれば管理状況に関係なく全て営業秘密になる

イ．秘密として管理され、有用で、公然と知られていない情報であることが重要である

ウ．公知となった情報ほど営業秘密として強く保護される

エ．業務に役立たない情報だけが営業秘密になる

答え・解説

正答：イ

ア：秘密管理性などの要件が問題となる。

イ：正答。不正競争防止法上の営業秘密では、秘密管理性、有用性、非公知性が重要な要件となる。

ウ：公然と知られていないことが重要である。

エ：有用性が要件の一つである。

総合解説：不正競争防止法上の営業秘密では、秘密管理性、有用性、非公知性が重要な要件となる。アクセス制限や秘密表示等を含め、組織として秘密管理の実効性を確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0143

ストラテジ・企業・法務 > 法務・標準化 | 難易度：基礎

個人データの安全管理措置として最も適切なものはどれか。

- ア．個人データは社内にある限りアクセス制御不要とする
- イ．漏えい防止のため従業者教育は不要とする
- ウ．取扱いリスクに応じて、組織的・人的・物理的・技術的な安全管理措置を講じる
- エ．全従業者へ全個人データの管理者権限を与える

答え・解説

正答：ウ

ア：内部であっても権限管理等の安全管理が必要である。

イ：人的安全管理措置として教育は重要である。

ウ：正答。個人情報取扱事業者は、リスクに応じて組織体制、従業者教育、物理的保護、アクセス制御・認証・不正アクセス対策等を整備する必要がある。

エ：最小権限に反し、漏えいリスクを高める。

総合解説：個人情報取扱事業者は、リスクに応じて組織体制、従業者教育、物理的保護、アクセス制御・認証・不正アクセス対策等を整備する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0144

ストラテジ・企業・法務 > 法務・標準化 | 難易度：標準

OSS（オープンソースソフトウェア）を業務システムに組み込む際、法務上最も適切な対応はどれか。

- ア．OSSは無条件で著作権が放棄されているので確認不要とする
- イ．無償なら契約・ライセンス違反は発生しない
- ウ．OSSの名称だけを変えればライセンス条件は消滅する
- エ．採用するOSSのライセンス条件を確認し、配布・改変・表示義務など利用形態に応じた条件を遵守する

答え・解説

正答：エ

ア：OSSにも著作権があり、ライセンス条件に基づいて利用する。

イ：無償であってもライセンス条件への違反は問題となり得る。

ウ：名称変更で権利・義務が消えるわけではない。

エ：正答。OSSは利用・改変・再配布が認められる範囲や条件がライセンスごとに異なる。

総合解説：OSSは利用・改変・再配布が認められる範囲や条件がライセンスごとに異なる。商用利用や配布の形態を踏まえ、法務・技術両面で条件を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0145

ストラテジ・企業・法務 > 法務・標準化 | 難易度：標準

NDA（秘密保持契約）を締結する際、特に明確にすべき事項として適切なものはどれか。

- ア．秘密情報の範囲、利用目的、取扱義務、開示可能範囲、返却・廃棄など
- イ．相手方へ全情報の自由利用権を無条件で与える
- ウ．契約対象や義務を曖昧なままにする
- エ．契約終了後の情報取扱いは一切定めない

答え・解説

正答：ア

ア：正答。NDAでは何を秘密情報とするか、何のために使えるか、誰へ開示できるか、保護方法、契約終了時の取扱いなどを明確にし、実務運用と整合させる。

イ：秘密保持の目的に反する。

ウ：紛争時に義務範囲が不明確になる。

エ：必要に応じて返却・廃棄や存続義務を定めることが重要である。

総合解説：NDAでは何を秘密情報とするか、何のために使えるか、誰へ開示できるか、保護方法、契約終了時の取扱いなどを明確にし、実務運用と整合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0146

ストラテジ・企業・法務 > 法務・標準化 | 難易度：標準

標準化を行う主な利点として最も適切なものはどれか。

- ア．競争を必ず完全に排除する
- イ．互換性・相互運用性・品質の共通基準を確保し、調達や連携を容易にする
- ウ．全製品を一社だけが製造するようにする
- エ．個別仕様を無制限に増やす

答え・解説

正答：イ

ア：標準化は競争をなくすこと自体が目的ではない。

イ：正答。標準化によって用語、インタフェース、品質要求などを共通化すると、異なる組織・製品間の接続性や調達の透明性が高まり、重複コストを減らせる。

ウ：標準化の本質ではない。

エ：共通化とは逆方向である。

総合解説：標準化によって用語、インタフェース、品質要求などを共通化すると、異なる組織・製品間の接続性や調達の透明性が高まり、重複コストを減らせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0147

ストラテジ・企業・法務 > 法務・標準化 | 難易度：標準

デジュール標準の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．市場で事実上広く普及しただけの仕様
- イ．一企業内だけで使う非公開ルール
- ウ．公的・正式な標準化機関による手続を経て制定された標準
- エ．法令に必ず罰則付きで規定された規格だけ

答え・解説

正答：ウ

ア：これはデファクト標準の説明である。

イ：正式標準化機関による標準とは異なる。

ウ：正答。ISO、IEC、JIS等の正式な標準化プロセスで制定されるものをデジュール標準と呼ぶ。

エ：デジュール標準は法令そのものに限定されない。

総合解説：ISO、IEC、JIS等の正式な標準化プロセスで制定されるものをデジュール標準と呼ぶ。一方、市場普及で事実上の標準となるものはデファクト標準である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0148

ストラテジ・企業・法務 > 法務・標準化 | 難易度：標準

個人データを扱う業務を外部委託する場合の対応として最も適切なものはどれか。

- ア．委託した時点で委託元の管理は不要になる
- イ．再委託の有無を確認しない
- ウ．安全管理に関する契約条件を定めない
- エ．委託先の選定・契約・取扱状況の把握などを通じ、必要かつ適切な監督を行う

答え・解説

正答：エ

ア：委託先に個人データを扱わせる場合も適切な監督が必要である。

イ：取扱いリスクを把握できず不適切である。

ウ：責任・取扱条件を明確化することが重要である。

エ：正答。個人データの取扱いを委託する場合、委託先の選定、契約上の安全管理、取扱状況の把握等によって適切に監督する必要がある。

総合解説：個人データの取扱いを委託する場合、委託先の選定、契約上の安全管理、取扱状況の把握等によって適切に監督する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0149

ストラテジ・企業・法務 > 法務・標準化 | 難易度：応用

クラウドサービス契約を締結する際、利用者企業のリスク管理上、最も重要な確認事項はどれか。

- ア．データの所在・保護、責任分界、SLA、障害時対応、契約終了時のデータ返却・消去など
- イ．サービス名の知名度だけ
- ウ．料金が最安かだけ
- エ．契約条件は標準約款なので一切確認不要とする

答え・解説

正答：ア

ア：正答。クラウドでは物理管理を委ねる範囲が広いため、セキュリティ、可用性、責任分界、監査権、データ移行・削除、再委託等を契約・規約と運用の両面で確認する。

イ：知名度だけでは自社の法務・セキュリティ・継続性要件を満たすか判断できない。

ウ：コスト以外のリスク・義務も評価する必要がある。

エ：重要な責任・データ取扱条件を確認する必要がある。

総合解説：クラウドでは物理管理を委ねる範囲が広いため、セキュリティ、可用性、責任分界、監査権、データ移行・削除、再委託等を契約・規約と運用の両面で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02

0150

ストラテジ・企業・法務 > 法務・標準化 | 難易度：応用

標準規格への適合をうたうシステムを調達する際、最も適切な監査・調達上の考え方はどれか。

- ア．規格名が一つ書かれていれば全要求を満たすとみなす
- イ．規格名の記載だけで判断せず、適用範囲・版・適合証拠・自社要件との対応を確認する
- ウ．最新版かどうかは確認しない
- エ．自社要件とのギャップ分析を行わない

答え・解説

正答：イ

ア：適用範囲や適合レベル、対象機能を確認する必要がある。

イ：正答。調達では、標準規格への適合主張を具体的な証明書、試験結果、適用範囲、規格版などで確認し、自社の機能・非機能・法令要件とのギャップも評価する。

ウ：規格の改訂や廃止により要求が変わることがある。

エ：標準適合だけでは個別業務・法令要件を満たさない場合がある。

総合解説：調達では、標準規格への適合主張を具体的な証明書、試験結果、適用範囲、規格版などで確認し、自社の機能・非機能・法令要件とのギャップも評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-02